

十五年に及び、無數の歌曲劇を成功せしめし力少しとせず。又デードンネ君 (M. Dendoné) は喜劇俳優の老手にして、一八三六年に生れ、二十年間ヴオーヅドル館に關係を有せり。然れども晩年に及んでは諸他の劇場に招かれてその戲臺に出演せり。

この外巴里の戯場に名を知らるゝ諸優を紹介せんに、女優にはフーヨル (Fayolle) マルチニー (Bertiny) サマリイ (Samary) 近頃物故せしジュアン・サマリイ嬢の同胞、マシナンギー (Archainbaud) アヴリル (Avtill) ヴェリール (Beryll) ボンネー (Bonuet) ベンシバ (Bézil) ヴィマチー (Butty) カルリクメ (Carlux) カロン (Caron) シヤパン (Chassaign) クレール (Dieterle) ナンシー・マルタン (Nancy Martel) マーソー (Henry) ガロソ (Gallois) ラコンン (Laconble) ランデー (Lander) マグニエ (Magnier) マガル (Megard) シズ (Siss) の諸夫人あり。男優にはエーテタイン (E. Duquesne) ター・バーラル (J. Barral) シー・ヌー (J. Fencux) エル・ブレンモン (L. Bréront) マー・カルメット (A. Calmett) エー・コンデ (E. Condé) エル・デコリ (L. Décor) エル・ドローネー (L. Delannay) ケー・シバダン (Desjardins) ヴー・ン・ガール (F. Fugère) シー・ガリギー (J. Galipaux) ヴー・ガール

ギー (P. Garnier) ゴー・ギー・ギョイ (G. G. Guy) エフ・ユグネー (F. Huguenet) ゴー・ノブ (G. Noble) マー・タリード (A. Tarride) の諸君あり

アントワン君とフランセーリーフル アンドレ・アントワン君 (M. André Antoine)

は凡流に傑出する俳優にあらざれども其精力の人に絶する、其思想の充盈せる、共和國の劇壇に強烈の感化力を奮へる、何れも皆吾人の稀に見る所にして、既往二十五年間佛國に於ける劇界の状態と運動とを回顧せば君の人格を推して非常に顯著なる地位に置かざるを得ず。君の初めて人世の徑路に上らんとするやその身微賤にして備に多大の艱苦を嘗めき。リモージュはその産地にして一八五九年に生れ、父はこの地に於て靴の製造を営みたるが、而も大規模の業を以て一般の世人に靴を供給し高麗華堂を建て、他食煖衣逸居するが如き境遇にあらず、自ら皮革を裁切して勞力に衣食する小匠なりき。アンドレ年なほ幼にして父母の膝下を離れ、自ら職を求めて衣食せんとしたるが僅に二手二足を資本として巴里の富都に漂泊し來り、或は掃灑用の刷子を足にし、鏡の如き床板を拂拭して失足舞躍し、或は真鍮の器皿を淨磨し、その他凡ゆる勞苦に従事したるが、誰か

這般の賤業を以て天の君に期したる將來の運命を開くべしと思はんや、新に地方より來れる少年は劇場を羨んで一たび半宵の歡を得んと欲せざる者なし。アントワン何ぞ獨り演劇の磁石力に吸引せられざらんや、然れども腰纏に乏しき彼は空く場外に佇立し餅舗の窓硝を窺ふて鼻の扁平ならんとする餓兒の如く切に之に指を染めん事を渴望せり、或日一友良計を案出して、アントワンに謂へらく、錢を要せずしてテアートル・ファン・セーズの内部を見る法あり、今此館幸に定員外若干の少年を要す、これ吾等が採用を求むべき好機にあらすやと、アントワンは之に應せり、二人は用ひらん事を求めて願意を達せり、斯くてアントワンは劇場の内部に入ることを得しかば、ゴーム・ネー、ジュリー、コクランその他當代に著はれてこの名場に出演する諸優の伎を精密に研究するを得しが、爰に屢使せらるゝ中彼は自から劇場に機縁を有することを感せり、然れども一介の俳優となるに先だち許多の大困難を衝破せざるべからざりき、彼は五年間軍隊に入て其義務を果し、後巴里に一書記の地位を得て毎月六磅を得たり、その頃セルク・ル・ゴローワ (Cecile Gaulois) と稱して好事家の劇を試むる會館ありき、彼は一夜偶

誘はれて之を觀たるが、會友等は松板を以て健てたる粗造の屋舎に出演して演藝の技倆を朋友等に示せり、會友はこの粗屋に謙遜なる名稱を附し、之をテアートル・ド・レリゼー・デー・ポーザル (美術の仙郷の劇場といふ義と呼べり、この會友の演ずる所は人口に膾炙する喜劇及び歌曲劇にして更にその他に及ぶことなかりしかばアントワン問て曰く、何故新劇を演せざるやと、答て曰く、何とよ、君はこれ他知る所あるにやと、氣力富溢なるアントワンはなほ少年なれども思想は輝くが如かりければ、知名の著者に一臂の盡力を乞ふて外觀虛美なるこの劇場に演ずる爲め若干の短篇を著はさしめんと欲し、若し幸に希望を達して之を演ずる機を得ば赫々たる運命を開くこと難きにあらざるべしと自信せり、精神の一たび到るや事の成らざるなし、彼の泣涕せる熱情はその効を顯して目的遂に達せり、短篇なれども新作戯曲四篇成り、先づ之より着手することとなりたるが、ポール・アレクシス (Paul Alexis) 及びレオン・ヘンニク (Léon Hennique) の二人も作者の中に數べられき、アントワンは任せられて劇場の管理者となり、加ふるに又自ら會計の責任を負ふことを許されたり、彼はその月の末日を以て演藝開館の日と

定めき。これ月末にはその俸給百五十法(即ち六磅)を入手すべきを以て、之にて開場の諸経費を支辨し得べしと期したりければなり。招待状は各處に送られ、巴里市に住して劇道に興味を有する評論家及び著名の人士は盡く誘はれしが、屈指の評論家中實に之に應じて來觀せし者數人ありき。開演の翌日アントワンが新機軸を開きて技藝を實驗せしこと巴里の通俗新聞に掲載せられ、道路の説紛々たり。エミール・ベルジュラトはフイガロー新聞に之を評し、木造の劇場を稱して「小オデオン」(Le petit Odéon)とせり。謂ふ意は嶄新なる才能の門戸を開き新機軸を出すべしとなり此言は果して微ありき。されど新にテアートル・リールの名を以て開かれ建築も亦前日の如く板にあらざりき。之より後數年間巴里人士は之を凝視せしが、今は巴里の名物となれるアントワン君の指麾の下に極端なる寫實主義の戯劇を演せし爲め誹謗の聲沸騰し來れり。これ職として該場の成功著しかりしに由る。テアートル・リール館の劇は戯曲界に革新を起さんとする目的を有せり。其實演せし諸劇常に必ずしも非議すべきにあらざりしも、全然徳義を壊滅し表情極めて禮の宜しきに背く者少からず、殊に其用語の粗硬未熟なるは卑

俗の男女すら吃驚せし所なり。斯かる自由を濫用する風は爾來自然に消滅せりと雖嶄新奇抜を趣意とするテアートル・リール座の衝動力は後年まで繼續せり。且つ又吾人はテアートル・リール即ち今日のテアートル・アントワン館が近來諸他の邦國に於ける劇界の運動に好奇心を起さしむるに大に力ありし事を注意せざるべからず。イブセン主義の如きは即ち此餘波の一例なり。當今アントワン君はオデオン座の管理者なり。故にベルジュラト君が木造の小劇場を指して「小オデオン」と稱せしは多少讖をなせりと謂ふべし。

第拾壹章 音樂家及び歌手

國民樂 佛國の音樂若し外國の感化力を受けざりしならんには、決して世界の抒情詩界に於て爛々たる光耀を放つこと能はざりしならん。何となれば明かに國民全般の音樂と稱し得べき資格を缺乏するを以てなり。尋常一様の歌謠に於てすら同然の事情にして、諸地方に於ては其他相應の興味と特徴を有する民謠古來流行せりと雖、所謂國民樂と稱すべきものに至りては幾百年間佛國に起りしもの極めて鮮少なり。而して各地に行はるゝ歌謠はたゞその一部の地の特徴を帶ぶるに止まり、之を國民歌とは稱し難く、その用語も亦概ねその地方特有の方言なり。ノエル(Noël)を基督降誕祭及びその前日に神徳を頌する俗歌と稱する基督教用の讚美歌あり、その起源は往々頗る古くして明瞭ならず。この歌及びその他昔時より行はるゝ宗教上の音樂は恐らくは最も國民樂の性質を有す。如何となれば昔時宗教的の團體、修道院に屬せざる僧徒、靈地巡拜者等は此種の唱歌を歌ひ、當時單純敦厚なる人民の感情を敲きて或は興趣を起さしめ、或は敬神の念

を鼓舞し、相遠隔せる諸地に相通する一様の感懷を起さしめ、以て廣く之を江湖に流布しければなり。

佛國の樂劇、即ち抒情詩の戯曲に關しては第十九世紀に至るまで殆ど語るに足る者なし。但しジュアン・ジャック・ルソー(J.J. Rousseau)佛國著名の著家にして音樂の達人。一七一二年に生れ一七七八年に死すの作れる「村の卜者」(Devin du Village)近來巴里の劇場に上され、第十八世紀の音曲に於ける珍品として公衆に提供せられし事あり。ジャン・バプティスト・リュリ(Jean-Baptiste Lully)一六三三年に生れ一六七二年に死すは樂劇に力を注ぎ、その作はクリストフ・クリスチアノ(Christopher Gluck)一七一四年に生れ一七八七年に死すの出で、名を專にするまで勢力を有せしも、其作は世に忘れられて已に年所を経、好事の穿鑿家が古書を搜索して之を知るに過ぎず。之を概論するに佛國の樂劇は常に日耳曼と伊太利の感化力に支配を受け來れり。

近世佛國の樂劇 ヘルリオー(Hector Berlioz)一八〇三年に生れ一八六九年に死すの諸作は一八七〇年の頃依然として民望を繁きしが、その中最も著名なるもの、

例へば「ラ・ダンナシオン・ド・ファースト」(La Damnation de Faust)及び「ロメオ及びジュリエット」(Roméo et Juliette)の如きは未だ世人の骨董視する音樂の舊文庫に束ねられず、シ・ルジ・ピゼー(Georges Bizet)一八三八年に生れて一八七五年に死すの作曲中最も世望多き「カルマン」(Carmen)は一八七五年に至るまで劇場に上らざりき。この作は鶴の歌なり。ピゼーは偉大の音樂家として高位を占め、佛國人は之を以て毫も他國の感化に薰染せざる一家とするも可なり。この外最愛の人「Mignon」ハムレット(Hamlet)「フランソワズ・ド・リミニ」(François de Rimini)の作曲家アンブローズ・トラス(Ambroise Thomas)一八一一年に生れて一八九六年に死す及び一八五九年劇場に出でたる「ファウスト」(Faust)を以て生涯の傑作とするシャル・グノー(Chales Gounod)一八一八年に生れて一八九三年に死すも亦佛國派と稱し得べき樂劇の古格を共和國の下に固持せり。但しこの頃には日耳曼人ワグネル(Wagner)一八一三年に生れて一八八三年に死すの勢力大に跋扈し、非常に佛國音樂界の思想と目的とを擾亂せり。

ワグネルの勢力、ワグネルは雄大なる革新家なりき。佛國人は深く之を憎怨し

てその強梁を憤恚せり。これ其日耳曼人なりし故のみならず、佛國人が慘烈なる劇戰に千苦萬難を嘗めつゝありし際、同國民に關するワグネルの書籍版行せられし者ありて、頗る戰敗國民を憤激せしめしに由る。而して佛國人の若しワグネルを憎疾することなかりせば、昔佛戰爭以來二十年間その強大なる勢力が佛國に滋蔓すること實に甚しかりしなるべし。佛國人は愛情の狂熱烈火の如くなる。と同時に増疾の熱も亦猛烈なり。ワグネルの勢力が佛國に侵入するや、多年に亘り然れどもその入るや隱密にして正々堂々たること能はざりき。その後一八九一年に至りてすらワグネルの作曲「ローヘングリン」(Lohengrin)を巴里の戲臺に演せんとしたる時、一團の黨與之に抵抗して、隱謀を企てたるが、政府はこの不平分子の運動を重大視し、外交的事變を生せんことを憂へき。而して始めて之を實演せし夜果せる哉。極めて紛擾なる騒變を生じ、止むを得ず翌日よりこの劇を撤去せり。今日の巴里人當時を追憶する時は、二十年に満たざる内に自國の形勢非常に變化せしことを驚かざる能はず。何となれば現今同市の人民はワグネルの作曲を歓迎し、その天才に相應する敬意を示すに吝ならざればなり。

シャルル・グノー(Ch. Franck)に見ゆの生涯を追尋するに大に注意すべきものあり。彼は樂劇の作を以て名を擅にすと雖、その終生の著作は決して獨り之に止まらず、蓋し彼の心内には性質甚だ相異なる二道の潮流ありき。その一は純潔ならざる術に耽りて逸樂の情緒を擅にし、その二は宗教的の感情と神秘主義にのみ傾注す。詳言すればその天性の半面は卑調の感情を戯場に暴露して自ら樂み、半面は高調の熱情を宗教に捧げて自ら喜べり。この熱情あるを以て彼は少年の時ラコルデール(Jean Baptist Henri Lacordaire)著名なる佛國の説教家にして、一八〇二年に生れて一八六一年に死すの門下に入り、又サン・シルピス僧侶學校に生徒となりて神學を修めたり。その著に成たりる神聖の諸樂曲は第十九世紀に産せる同種の諸作中最も世に重んぜらるる者と相伍すべし。英語國の人に知らしめんが爲めには彼の諸作中「贖救」(La Rédemption)及び「死と生」(Mors et Vita)の二種を擧ぐれば足れり。

ジュートル・マスネ(J. Massenet) 近代佛國の抒情詩界に光明を放ちたる作曲家中第一に名を掲ぐべきものを「ジュール・マスネ」君(M. Jules Massenet)とす。君は一八四二年に

生れ、精力人に絶して著作の豊富なること亦尋常にあらず。その作曲を列擧しなば長き目錄となるべし。その中「マノン」(Manon)は一八八五年中オペラ・コミック座に於て演出せられしが、恐らくは此大家が吾人に貽せる許多の曲中最も久しきに存すべき性質の樂劇なり。此作は極めて活潑爽快にして善く人情に合し、最も善く嬉笑的樂劇の舊格調を守れり。嬉笑的樂劇は人の普通に解する樂劇にあらず。マスネ君の作曲が其文體より見るも其趣意より見るも廣大なる區域に涉りて衆體を囿括し衆趣を包綜するは、其主要なる樂劇若干の題號を讀むも知られ得べし。「イーゼリン」(Les Erynie)「キーン」(Le Roi de Lahore)「ロシアン」(Ferdinand)「君長」(Le Cid)「マンタン」(Werther)「タイン」(Thais)「サニー」(Sapho)等の如き其數例なり。「天使」(Cherubin)は一九〇五年に演演せられしが、君の作中最善なる者の一にはあらず。君今技藝練習所の一教授にして、吾人は現代佛國の音曲作者中重要な地位を君に献せざるべからず。

カミール・サン・サエン(Camille Saint-Saëns) 君(M. Camille Saint-Saëns)は巴里の産にして一八三五年に生る。多數人士の所見を以てせば現時生存する音曲家中最

先の地歩を占むべき人なり。蓋し君が音曲科學の大家にして技術に於て熟通せざることなきは、吾人の直ちに首肯せざるべからざる所なり。然れども音樂の目的若し深き情熱のみならず優雅微妙の感情を表出して聴者にも同一の情を起さしむるに在りとせば、君は此理想を達するに屹緊なる要素に缺如する所あり。君は藝術優游主義を音樂界に適用せし人なり。ベルリオーの去りし後、ワグネルの感化力は、大に君を動かせり。然れども君は遂に此日耳曼の大音樂家が占有する高尙の地位に近接すること能はざりき。ビゼーは齡四十に及ばずして溘亡せしが、天若し斯人に假すに年を以てせば、ワグネルの急流を阻遏して佛國の境界に入らざらしめしやも知れず。ワグネルの樂曲が佛國民の性格に一致せざるは、羅旬流の抒情詩的戲曲よりも甚し。羅旬曲の精神は「カルマン」前に見ゆ。及び「ラルヴェン」(L'Arlesienne)の作者として著名なるビゼーに其神髓を得るのみならず、新鮮にして飛動する新機杼を之に加へき。サン・サエヌ君の近年作出せし曲中著名なる樂曲は「サムソンとメリラ」(Samson et Dalila)、「プリネ」(Pryne)、「フレドゴンド」(Frédégonde)、「魯民」(Les Barbares)、「ヘンーンと巴里」(Hélène et Paris)一九〇四年に出づ。

なり。

小樂劇の作曲家は、劇曲作者を叙述する時、本書の内容に相應する程度に於て已に説示せり。

セザル・フランク (César Franck) は抒情詩界の作曲家にあらざりしと雖、共和政の下に佛國の技藝に光明を發揚せしめたる諸人中第一流の班に就かざるべからず。元來は白耳義人なりしも、一八七〇年中歸化して佛國人となれり。一八四六年の頃早く已に神聖樂「リート」(Ruth)を作出せしかども、彼の爲めに名譽の基をなせしは、主として遙か以後に成りし諸曲、即ち「贖救」(La Rédemption)、「福社」(Les Béatitudes)、「レベカ」(Rebecca)、「サイキ」(Psyche)なり。その作曲は機杼あり、學理あり、高尙なる感想あるを以て、有識具眼の評論家にすら際限なく感嘆せられ、其中には家庭音樂の範圍に入るべき許多の短篇をも包含す。多年の間セザル・フランクは巴里に於けるサント・クロチルド寺院に在つて風琴手たりき。

レオ・デリーブ (Léo Delibes) 一八三六年に生れて一八九一年に死す。は「ライ・メイト」(La Source)、「コッペリア」(Coppélia)、「マンタ」(Bijou)、「ラタ」(Lakmé)の諸

作を出せしが、此諸曲は着色に於て足らざる憾あれども、美麗にして輕快なる味を有し、且つ奪魂の魔力なきにあらず。ラクメは一八八三年オペラコミック座に演ぜられしが、其主要の人物ラクメがマリリー・ヴァンサン嬢の扮する所となりて大に成功せり。

アンドレ・メッサゼー君 アンドレ・メッサゼー君 (M. André Messager) は一八五三年に生れ、輕快なる樂劇の作者中に在つて一頭地を抜く。其近來作出せし者の中著名なるは「バゾーシュ」(La Bazouche)「クリサンテーム夫人」(Madame Chrysanthème)「ドラル嬢」(Miss Dollar)なり。

諸他の作曲家 エドワード・ラルロ (Edouard Lalo) 一八二三年に生れ一八九二年に死すは其輕快の樂劇「イヌの王」(Le Roi d'Ys)が一八八八年戲場に出で、成績佳なりし爲め其名を記憶せらる。ギユスター・ヴ・シヤルバン・チャエー君 (M. Gustave Charpentier) は一八六〇年に生れ、一九〇〇年中「ルイズ」(Louise)てふ樂劇を出せしより後少壯の音曲作者中強固の地位を占めき。

此他音曲者として名聲を博し、幾分か現代佛國の社會に勢力を振へる者あり。次

に其著しき者を列舉せん。

テオドール・デュボワ君 (M. Theodore Dubois)……一八九五年に公にせられし「ザヴィエール」(Xavier)等の作あり。

アルフレード・ブリューナー君 (M. Alfred Brunnau)……「楳月」(Messidor)佛國革命曆の第十月「颶風」(L'Ouignon)等の作あり。

ポール・ヴィダル君 (M. Paul Vidal)……其作「ノー・ブール・モンド」(Les Bourgeois)は一九〇一年に出でき。

ヴァンサン・ド・マンドー君 (M. Vincent d'Indy)……「ワルンスタイン」(Wallenstein)「鐘の歌」(Le Chant de la Cloche)あり。

ガブリエル・フォーレ君 (M. Gabriel Faure)

ザヴィエール・ルルー君 (M. Xavier Leroux)……其作「アスタルテ」(Astarte)は一九〇一年に出でき。

ヴィクトル・マッセ (Victor Massé) 一八二二年に生れ一八八四年に死す……其作「ジュアネットの婚儀」(Les Noces de Janette)てふ嬉笑的樂劇は今尙人望多し。

ベンジャマン・ゴッダール (Benjamin Godard 一八四九年に生れ、一八九五年に死す)。
 エルネスト・レーニーエー君 (M. Ernest Rey 一八二三年に生る)……「サランボー」(Salammbo) の作者なり。

オーギュスタ・オルム夫人 (Madame Augusta Holm)……女史の如く音曲作者として優絶の手腕を挾持するは婦人界に多く其比を見ざる所にして、官廳は作曲の機ある時屢々其才幹に仰ぐ所ありき。

歌手 佛國は伊太利の如く歌唱に天授の妙を得たる土にあらず。之を日耳曼に比するもなほ且つ大に遜色あり。概して論ずるに佛國人の音聲は稍微弱なり。聲樂の鍊磨の爲め政府が奨励を與ふること頗る大なるを考ふる時は、該國の人民若し歌唱の能力を享受すること多かりしならんには、現今よりも尙に良好の成績を挙げしなるべし。然るに諸地方に至りては此技甚だ拙からず。歌謠の性癖もその力も共に優秀なるものあり。これ偏に人種の差違より生ずる結果なり。試にラングドック (Languedoc) 佛國の南部に在る舊時の州名にして、東はローン河、西はグロン河及びガスコニーを界とす。殊にツールーズ及び其四周の地を見るに、其人

民一般に富麗強烈なる聲調を有し、音吐曉曜明徹なる者敢て少しとせず。抒情詩を歌ふに最も適せる地方として注意せられたり。ツールーズは最も多く著名の歌手を産する所にして、就中カブール (Cahors) を出せし名譽を有す。

パリ・オペラ館 (Paris Opera) は政府に於て之をラカデミー・ナショナル・ド・ミュージック (L'Académie Nationale de Musique) 國民音樂院の義と稱す。然れども其名譽を墜さざらんが爲めには聲音の才幹を佛國以外に待たざるべからず。オペラコミック館も亦政府の補助に浴するものなれども、外國人の鼓鑼を仰がざるべからざるは猶パリ・オペラの如し。然れども此二館中何れかに勤務するを目的とする外來歌手は佛國に於て多少の練習を受くるを通常とす。

近年パリ・オペラ館又はオペラコミック館と親密の關係を有せし重要な歌手中屈指の者を左に示さん。

エンマ・カルヴ夫人 (Madame Emma Calvé 一八六四年西班牙の首府マドリッドに生る)

ローズ・カロン夫人 (Madame Rose Caron 一八五七年巴里の附近に生る)

- アイノ・アクテ夫人 (Mme. Aino Aekta)
- ポーリン・アギャンル夫人 (Mme. Pauline Agussol)
- ロール・ボーヴェー夫人 (Mme. Laure Beauvais)
- リュシー・バルター夫人 (Mme. Lucy Berthe)
- ロザ・ボスマン夫人 (Mme. Rosa Bosman)
- ブレシアン・シルヴェー夫人 (Mme. Brejan-Silver)
- カリーリエール・ザンロフ夫人 (Mme. Carrière-Zanroff)
- クレチアン・ヴァグエー夫人 (Mme. Chrétien-Vaguet)
- エム・ド・クレボンヌ夫人 (M. de Creponne)
- マリー・デルナ夫人 (Marie Delna)
- デュシャン・ゼアン夫人 (De-champs-Jéhin)
- マリー・ガルダン夫人 (Mary Garden)
- ジュリア・ギロド夫人 (Julia Guiraudon)
- ルイズ・グランデュアン夫人 (Louise Grandjean)

- ジュアン・ハントー夫人 (Jeanne Hatto)
- エト・ングロン夫人 (M. Héglon)
- ランツォーチー夫人 (Landouzy)
- リュロー・エスカライ夫人 (Lureau-Escalais)
- ジャン・マルシー夫人 (Jane Maroy)
- ジャン・マリロー夫人 (Jane Mariguan)
- ジュリエット・ピエロン夫人 (Juliette Pierron)
- シビル・サンデルソン夫人 (Sibyl Sanderson)
- セシル・シモンネー夫人 (Cécile Simmonnet)
- アー・アフル君 (M. A. Affre)
- エム・シヤムボン君 (M. M. Chambon)
- エフ・クレマン君 (M. F. Clément)
- エル・ドラケリーニール君 (M. L. Delaquerrière)
- シー・デルマ君 (M. J. Delmas)

ビーエールマンゼン君 (M. Pierre Engel)
 エルフルネー君 (M. R. Fournets)
 エルフルボーネン君 (M. L. Fougère)
 アーダレンヌ君 (M. A. Gresse)
 アンバル・ド・ラ・シーヌ君 (M. Imbart de la Tour)
 マレシャル君 (M. Marchal)
 ヴィトル・モレル君 (M. Victor Maurai)
 ジーノーテ君 (M. J. Nové)
 ゴーヌーラクロン君 (M. G. Soulaeroix)
 アーヴァグー君 (M. A. Vagne)

外國より來れる歌手は時として其名を變じ其字形及び發音を佛國風とせることあり。

第拾貳章 科學及び發明

死滅との戰 造化自然の眞理は廣大淵博にして大海の如し而して吾人は纔に其數滴を挹み得て之を智識とし之を科學の倉庫に蓄へたりその未だ挹み得ざる部分は神祕幽暗にして際涯なく之を汲んで盡くる時なく之を照らして明かなる能はず過去五十年間佛國が此滄海の秘蘊を窺はん爲め高く掲げし燈燭は光輝最も燦爛として探查力に富み諸他の邦國が掲げし光明に比して劣れる所なかりき其效果は顯著にして一面には嶄新強固なる思想を人に與へ一面には人類の快樂を増加し若くは苦難を軽減せり廣く古往今來の世界歴史に見るに科學が多大の功益を人類に與へしこと此五十年の如くなるはなし疾病を防止し死滅と戰闘するに至りては其貢獻する所殊に大なり死滅は督促最も急なる債鬼にして早晚必ず吾人の生命を奪却し去らんと欲し科學の進歩も能く之を征服するに足らず然れども幾年かその要求を猶豫せしめて可成的決算の日を遷延せしむる功あるは吾人の感謝に堪へざる所なり。

パスツール(Pasteur)及びリステル(Lister)てふ二人の名は常に並び稱せられて相離れざるべし。其故はこの二人者が生命の救助てふ一個の目的に心を注ぎて並行線に行動し、その偉大の事業が利益を人類に施せしこと實に莫大なるに由る。既往に於ける科學發達史を見るに人間に幸福を與へし例乏しきにあらずと雖、之を二君子の偉績に比すれば數歩を譲らざるを得ず。リステルは偶然の創傷又は外科手術より生ずる傷口に防腐法を適用する學理を普及し、以て鴻大の恩恵を人間に施せり。然れども彼をして科學界に此革新を唱へしめしは何ぞや、實にパスツールの考究と發見を見て悟る所ありしに由れり。輒近の外科術が疾病の治療に於て長足の進歩をなせし所以を尋ぬるに、器械を使用する手練上達せしが故にあらず、死滅の原因が極微なる有機體に胚胎する事を發見し、科學を以て此萌芽を撲滅する法を講せし故のみ。往時は未だ此に研究し至らざりしを以て、傷口の腐敗より毒を生じて人命を危くするの恐を免れざりしに、今はこの危険大に除去せられたり。故に今日の外科は大膽に且つ安全なる腕を以て任運に手術を行ふことを得。パスツールは實に此有害有毒なる極微有機體を遊離せしめし

人にして、これより後斯道に従事する者の目的はこの有機體を傷口に近接し能はざらしむるに在りき。極微有機體とはバクテリア等の如き菌にして、有機體の分解せんとする時必ず發見せらるゝ者なり。

今説述せし科學は即ち所謂微菌學にして、世界に林立する文明國民中に在つて斯學の率先者たるは、其光榮固より尠少にあらざるなり。此科學は疾病の防止に關して研鑽攻究の新世界を開き、二豎子の恐るべき暴威を摧きて人命を救助せし事その幾許なるやを知らず。而して此光榮を荷へる者は佛國なり。然れども同國が此令聞を得し所以偏にルイ・パスツール(Louis Pasteur)一八二二年に生れ一八九五年に死すの遺澤に由る。パスツールは生物化學を修めし人にして、生活極めて朴素に品性極めて謙讓なる士なりき。彼は耐忍を以て唯一の鎗とし、以て極微極小の秘室を開かんと勉めしが、造化無窮の神祕は到底科學の闡明解釋し得る所にあらざるを知り、無窮なる造化が吾人に提供する諸大問題に逢ふて常に謙讓拜伏せり。然れども尙且つ竊に深く期する所あり、その透明徹底の睿智を以て自己の看破せし眞理は重大なる荷擔と紛糾せる難問を除去して萬人の心を安

んせしむるに倔強なる資源なりとせり。
パスツール學院 皮相の見を以て佛國人民を斷する者動もすれば思へらく、彼等の性情は科學の研究に適せずと、然れども深く其真相を窺ふに彼等は頗る科學研究の資質に富めり。浮薄輕佻なる新聞雜誌に至るまで科學院の紀事を報告する爲め多大の紙面を費せるを見ても之を證するに足る。該國に於ける科學研究を目的とする會館甚だ壯廉なるが如き、或は個人が私に考究勉勵して收め得たる結果を闔國到る處に散在する大小數多の博物館に陳列して公衆に示すが如き、其證據の殊に歴々たる者にあらずや、然れども科學研究の會館各處に布列する間に在つて最も重要なる者はパスツール學院(Pasteur Institut)なり、該院の重要なる所以は今に至るまで絶えず感化力を放射し、既に收めし事業の成績最も較著なればなり、吾人は之を以て微菌學者輩の母校と思惟せざるを得ず、これ其著名なる設立者の名に従ふてパスツール館と稱し、且つ其墳墓が同館の土窖中に在るが故のみならず、人をして微菌學の攻究に心力を專にせしむるが故なり。パスツールの學校に薰陶せられたる門弟子は今尙該館に在つてこの大化學家

大生物學家の遺業を繼承し、學理上必ず存せざるべからざる解決法を求むるに汲々たり、その耐忍の強きこと恰も昔時の鍊金家(下等の金屬を以て黄金を作らんとせしもの)の如く、而もその理想は高尚なる仁術に在りて、鍊金家の如く下劣ならず、若しこの解決法にして發見せられなば、天下萬民を苦むる百病を衝いて、其最も堅實なる壘柵を破滅するを得べし。
 ルー博士 一八九五年パスツールの長逝するや博士ピエール・ルー(Dr. Pierre Roux)其後を承けてパスツール學院の長となれり、博士は一八五三年に生れ、順序として直ちに設立者に代るべき資格を有せり、この時に至るまで博士は多年パスツールの助手として忠實を盡せり、パスツールは曾つて自然發生説(下等有機體が無生物より自然に發生するてふ學説)の實際上不可能なることを證明し、南部佛國に於て養蠶業に従事する幾千萬の人民を貧窶より救助し、釀造酒の諸病は極微有機體の致す所にして、之を撲滅せば其病の治すべきことを證明し、次で恐水病を征服せり、然るにパスツールは未だ曾て醫學を修めて學位を得たることなし、これ自ら學理的の科學家として立たんと欲し、少しも醫を業とする意思

なかりしに由る。是を以て恐水病の接種液(稀薄にせる病毒)を皮下に注射するが如き簡單なる手術するパスツールは法律上之を行ふこと能はざりき。此故に彼は醫師を助手とする必要を感せしが、ルー博士は曾て博士の學位を受くるより以前師範學校の試験室にパスツールを補助せし緣故あるより來て之に投じ、世人の未だ如上の注射法に價値ある事を信せざる時代に幾度かパスツールの眼前に手術を實行せり。パスツールが學院を設立する間にも、博士は之が助手たりしが、學院設立の後一個獨立して自ら微菌學を考究せり。斯くする中一八九四年に至り博士は義膜性咽喉炎及び義膜性喉頭炎も亦同一の極微有機體より起るものにして之が豫防法及び之を治癒すべき血清の發見を公にするを得たり。此發見はベーリング(Behring)及び博士の二人が同一徑路に研究を繼續せし結果なり。吾人は此發見の重要なる所以を説て世人に紹介するの要なし。此一舉に由り佛國は蓋し最大の賜を世界に分てり。何となれば義膜性喉頭炎は既に久しく佛國全般に蔓延し、小兒病中最も多く頻發して害毒を流せし一なりしを以てなり。爾來該病は猖獗の勢衰え、小兒の死亡率は比較的減少せり。ルー博士は又非常に

破傷風の極微有機體に注意したるが、之に關聯する博士の研究その效を顯し、種の血清を用ひてこの猛烈なる惡疾を治癒する方法を案出せり。極微有機體即ちバチルスより起る諸種の疾病を療するに接種液(稀薄にせる病毒)を用ふる方法を離れて血清を用ふるに至りしは大にルー博士の功績にして、義膜性咽喉炎の病毒は馬に接種すべからざるより、博士は馬の血に混有せる漿液を皮下に注射し、以て該病を療する方法を發見せしに由れり。一九〇三年佛國學院は四千磅のオシリス懸賞を同博士に贈與せり。

メチニコフ及びマルモレツク パスツール學院は自由寛大を以て基本の主義とする故、何國人たるを問はず研究家たる者の爲めに門戸を開く。エー・メチニコフ博士(Dr. E. Metchnikoff)一八五五年に生る(露西亞人なる、アレキサンデル・マルモレツク(Alexander Marmorek)の埃太利人なるが如き其實例にして、前者は多年該院に研究を積み、黒狼々族の猿に關する實驗を以て科學界の注意を惹きし人、又後者は巴里全都に名を馳する士にして、結核及び連鎖狀球菌の血清液を出せり。然れどもその價値は未だ決定せず。

アンドレ・シャントメス博士 (Dr. André Chantemesse) 一八五一年に生るは佛國に於ける衛生學の大家にして、パスツール學院に研學し、其後獨逸人コッホ (Koch) 及びボルリッングル (Bollinger) の試檢所に學べり。傳染性の赤痢病に關し並に又病菌殊に腸窒扶斯の微菌に由り水の腐敗する事實に關して微菌學上重要な研究をなせり。且つ又博士は蠅が傳染病殊に虎列刺病を傳播するに極めて猛烈の媒介なることを證明せり。又窒扶斯を防遏する血清液を發見せしが、其效驗の有無は現今多少の疑なき能はず。

イエルシン博士 (Dr. Yersin) は一八六五年瑞士に生れ、パスツールの試験室に研究せし後佛國に歸化せり。當今は少壯微菌學者中著名の一人なり。博士は一種のバチルスを見出したるが、この菌は黒死病のバチルスと思考せらる。キトワサト (Kilmanto) も亦殆ど時を同うして同一の發見をなしたるが、この人は全く博士と關係なく獨立に研究したるなり。イエルシンは清國に於てこの恐るべき惡疫にその血清を試用せしが、その結果患者の死亡率は百分の七十五より四十八に降りるといふ。この數字をして眞ならしめば人命を救助せし功績や甚

大なりと謂ふべし。然れども血清の效力を増加せしむべき餘地は尙多大なり。ドワイヤン博士と癌腫 エーエルドワイヤン博士 (Dr. E. L. Doyen) は一八五九年に生る。微菌學者と謂はんよりも寧ろ開業外科醫なり。されど癌腫治療の専門醫として旗幟を建てし故に、先づ癌腫の微菌を發見するを目的として一個獨立の研究と實驗をなし、次で實驗上に得たる結論に基き微菌學の原則に據て治療用の血清又は接種液を製する爲め研究を繼續するに至れり。頗て博士は一種のバチルスを遊離し來りて之を癌腫の微菌なりと主張し、之にマイクロコクサス・ネオフラマンヌ (*Micrococcus neoformans*) 新形球狀微菌の義といふ名を附したり。次に博士はこの菌を液中に培養して之より一種の漿液を製し、之を癌腫患者に接種せり。この液は膿、血清と稱せらるれども實は接種液なり。該治療法の効果は今日まで劇烈の議論を生じ、學者の意見區々に別れたり。一九〇八年中博士は癌腫が寄生微菌に起るて自家の學説を主張して巴里の生物學協會に一書を寄せしが、その中には先づ人體中に在る白血球に關するメチニコフ博士の研究と發見とに論及して白血球の効用は有毒菌を吸収し人體を保護するに在りてふ説を駁し、更

に進んで曰く、癌腫の微菌を研究する際予は白血球自身が菌を吸収するにあらず、其細胞の核之を吸収して迅速に消化し去ることを發見せり。之を見て予は癌腫の細胞その者に關し更に穿鑿を進め、微菌の所在が實にこの細胞の核なることを確信せり。斯く菌の攻撃を受ける細胞は忽ち不規則に發達し、健全なる組織を破壊して自ら之に代れりと。最後に博士は論斷して曰く、第一、凡そ微菌學に就て重要の關係ある者は細胞の核なり。第二、癌腫は規則正しき細胞の核中に寄生物の宿るに始まる病なりと。この論斷に由り博士は癌腫の特徴たる細胞が亂闘を以て發達する所以を説明せり。癌腫の構成及び防禦的細胞の作用に關するこの見解若し誤謬なしとせば、吾人は細菌學者が年々社會の各階級を侵略し人命を破壊する有毒なる萌芽を攻撃塵滅する徑路を歩んで已に遠く進歩せりと思惟して可ならん。

諸種の細菌學者 今日生物學考究場裡に我々活々として操業する學者はリールに於けるパスツール學院長カルメット博士(Dr. Calmette)なり。君は結核菌の毒を稀薄にし又は變形し、之を外皮下に注射せず、消化諸機に用ふるを原動力として結

核病治療法を發見せんとし、特にこの一問題を研究せり。博士は又結核病の危険を第一着に警告する者を眼なりとし、現今眼科學的の診斷法を研究す。

結核病は近年佛國に於て非常に暴威を逞うし、人煙稠密の區及び佛國の北部並に西部の海邊には殊に甚しく蔓延す。是に於て既述以外の學者にしてこの脈ふべき疾病を征服する爲めに考究に従事する者多し。是等の科學家中特に高く屹立する者はアルロン教授(Professor Arloing)なり。氏は今リヨン府の獸醫學校に教鞭を執り、結核の接種液又は血清を犢牛に接種する重要な實驗に従事せり。次にヴァレー教授(Professor Vallee)はアルプスに住し、ヘーリング氏の牛痘の實驗に従事す。但し單に實驗するにあらず、實は寧ろ之を改良して其効果を久しからしめんと盡力するなり。此二教授は科學考究基金(Caisse des Recherches Scientifiques)の中より補助を受く。該基金は一九〇七年に創設せられ、國會は科學的攻究を獎勵する爲め九千磅の支出を可決せり。

ギヌター・グマルタン博士(Dr. Gustave Martin)の亞非利加に於ける盡力も亦爰に表示せざるべからず。コンゴ―河の廣濶なる流域に在つては睡眠病漸々流行して

居民を苦むること甚しきに至りし爲め、博士は微菌學を應用して該病の有効なる治療法を發見するに盡瘁す。斯くの如く佛國人は實に何れの方面に於ても實際的の生物學者として行動し、其熱心と精力眞に人をして刮目せしむ。

大小無數の川流が混濁汚染するは佛國に於て甚大なる害毒となれり。何となれば一方に於て一般人民の健康に影響すること極めて大にして、一方に於て數多の地方には魚類の全然斃死する危険あればなり。是に於てカルメット博士、科學會院のミンツ君(Mr. Mintz)、グリンなる農學校の長トルーアル・リオル君(Mr. Trouard-Rolle)の三人は相提携して研究に従事し、排水渠より放射する惡水及び許多の製造場工場より放出する惡水の有毒なる性質を撲滅する問題を解決せんとす。此研究を獎勵する爲め政府は前述の基本金より三千四百磅を割けり。

生理學とクロード・ベルナル クロード・ベルナル(Claude Bernard)は一八一三年に生れて一八七八年に死せり。故にこの書中に殊に叙説せんとする時代に屬する人とは謂ひ難し。然れども彼は近世生理學の爲め荆棘を開きし先導者にして、その説は方今許多の試験所に威力を奮ひ、自然の現象を探究する無數の學者は大

に斯人の感化を受く。ベルナルは新局面に向て遠く歩武を進め、實に醫家の革新家なりき。單に經驗のみを基本として學理に據らざる治療法に關し、生理學者が疑心を懷きしは、リオン府に於て一化學家の助手たりしときに生まれり。雇主なる化學者は獸醫學上の實驗を積める人なりしが、一日氏に語て曰く、馬用の諸藥中無効なる者若くは有害なる者は盡く保存すべし。之を他の藥劑の廢物と混合する時は完全なる煉藥となり、諸種の毒及び恐水病毒を消し、又體內各種の疾病を療する事あるべければなりと。此より以後ベルナルは何等の定説にも信を置かざるべしと決心せり。斯くて氏は非常に苦心焦慮して遂に醫學及び生理學に關する名譽を博せしが、吾人は爰に其詳細を説述すること能はず。然れども氏が純粹の生理學及び病理的生理學に練達精通し、之を基礎とする實驗醫學を佛國に起せし率先者なりしは吾人の須らく記憶すべき事とす。而して内外科の醫學をして活體解剖に屬隸せしめし功績は何れの學者も氏に及ぶこと能はず。今日活體解剖に反對する醫家はポール・ベル(Paul Bert)一八三三年に生れ一八八六年に死す。てふ名を惡む。宜なる哉。ベルはベルナルの門下にして師説を鼓吹せ

シロード・ベルナルは上述の如く在來の醫學に疑心を懷きしも、形而上の事に至りては爾く暴慢にあらず又獨斷的にあらず其言に曰く予の務は有形界に於ける現象を研究して苟くも斷定し得べき事あらば則ち之が結論を出すに在りと。而して氏は事物究竟の原因を探究するを以て科學の領域にあらずと主張せり斯くてベルナルは自家の法則を説明して曰くこれ一切の學說流儀を非認する者にして單に健康及び病狀に關する現象の近因まで推進する科學のみと化學とベルトロー、全く細菌學の範圍を離れて化學の領土に入るに、マルスラ・ンベルトロー (Marcelin Berthelot) 一八二七年に生れ一九〇七年に死せり(の明譽は第十九世紀中佛國の學界に於て探究力最も深く革新力極めて大なる者なりきその試験室に於ける幾多の實驗を適用して工業界に利益を與へしこと莫大無量なり氏若し商業に志あつてその許多の發見を貨殖の道に用ひ特許を得て以て製造販賣に従事したらんにはその富を積むこと何ぞ當に陶朱綺頓のみならんや然れども眞誠に科學的天才ある君子にして實業家たるは由來多く見ざ

る所、ベルトロー氏も亦眞に這般の好學家なりその好む所は造化の秘論を開きて化合物を分解し再び之を結合して新化合物を構成するに在り、黃白を貪り、精幣を私せんとする慾望は涓埃もその心に存せざりき、氏が科學界に貢獻したる勳業の偉大なりし所は主として分析の結果より再び新物體を結成せしめし點に在り、氏が一八六〇年に公にせし書は名けて「合成法を根柢とする有機化學」と稱す、この題號は既にその力を致せし方向を明示するものにして、氏の努力は將來化學實驗室に大々的の革命を起すべき運命を有せり、且つ又ベルトローはクロード・ベルナルと同様に科學家たりしのみならず兼ねて又明晰強健なる文士にして化學に關する著作に貢獻せし所實に重大なり、氏は化學に合成及び分析の二法あるを論じ、之が定義を下して曰く、合成法の職掌は化合物を支配する一般の規則を吾人に了解せしむるに在り、此立脚地より見れば、合成法は無量の化合物を産出する特異の力を有する者と斷定し得べし、分析法はたゞ天然に存する合成體及びその分岐體を分析するのみにして、其以外に出づることを得ず、之に反して、合成法は物體産出の理法に依頼して進行する者なれば、天然に存在す

る物質を人為的に産出するのみならず、未だ曾て天然に存在せざる無数の諸物質をも産出す。天然に存する物質の如きは畢竟産出の理法に由りて成りたる一部のみと、ペルトローはこの推理と實驗の結果とを根本として、化學に與ふるに未だ斯界に知られざりし新職務を以てし、人智の作用に由り新物を創出する任務を荷へる科學とせり。氏の發明せしアニリン染料てふ化合物は忽ちにして植物染料を掃蕩驅逐し、南部佛國の茜草栽培者に大損害を與へき。然れども凡そ一個の職業に利なる事は或る他の職業に不利なり。これ勢の免れざる所にして、その發明が一般人民に利益を與へしは疑を容れず。此他ペルトローは人工を以て許多の有機化合物を製造し、諸種の職業に新生命を與へしが、香料製造者すらその德澤に浴し、人力を以て花卉の芳香を擬造する方法を氏に學べり。氏は又勞苦を忍び遠路を旅行するにあらずんば獲得する能はざる物質を急速に製造する方法を示し、或は其合成法の結果に成りし多種の新藥を加へて藥方書を賑はせり。心腦、神經系統に向て不可思議の効果を呈する新藥劑を發見せしも主として氏の功にして、此種の諸藥に附せられたる新奇の名稱は近時の實驗室に在る秘藥

に通せる者にあらずんば、毫も其義を解すること能はず。

新爆發藥 ペルトローは一八七〇年自國に落下し來りし大慘禍を目撃し、政府の爲め自家の學を應用して新爆發藥を製造するに盡瘁せり。爆發藥は近世軍隊の新利器にして、この利器の効果は大に器械學を新化學力に適合せしむる巧拙に關せり。而して世界各國の軍隊に用ひらるゝ爆發藥は既往三十年間に大變化を生せしが斯かる變革を起せし主動者は實にペルトロー其人なりき。クレシーの戰爭(佛國ソム州の一村クレシーは有名の古戰場にして一三四六年八月二十六日英國のエドワード三世が大にヴァロワのフィリップに統率せらるゝ佛軍を敗りし地なり。この時大砲始めて英人に用ひられき)以來黑色火藥は常に歐洲の戰爭に用ひられ、その濛々たる煙は大に戰爭の恐怖すべき光景に繪畫の趣意添へたり。然るにペルトローはその魔術を以て之を無煙の火藥に變せり。佛國政府が此火藥を用ひしは爆發藥に革新を起せし始めとす。

食物問題を解決する錠劑 ペルトローは晩年に及び一日嬉々として諧謔しながら、多少眞面目の態を以て豫言して曰く、食物の獲得は幾多の人民が非常の苦

難とする大問題なれども、早晚化學は之を解決するに至らん。この時に至らば炭酸瓦斯より炭素を析出し、窒素を用ひて水より水素を遊離し、空氣中より酸素を借り來り、此三者を巧に合成して扁平なる一錠劑を作り、その容積を小にして衣囊に携帶するに便ならしめ、之を以て吾人日用の滋養に充つるに十分なるべしと。然れどもこの方法若し佛國に實試せられなば吾人は饑餓の聲を聞くこと現今よりも却つて多かるべしと考へざらんと欲するも能はざるなり。

熱化學　ペルトロロイは又熱化學(英語 thermo-chemistry 佛語 thermochimie)の創設者なりき。熱化學を簡説せば、物質が作用を起し又は反應を受くる間に放射し又は吸收する量の量を測定し、之に由て原子又は分子中に起る運動の力を計算する科學なりと謂ふを得べし。この學の開けしより以來、化學家は熱と運動との二者を同義の語と見做すに至れり。哲理に關してペルトロロイは實驗理學を奉ずる人なりき。然れどもオーギュスト・コントの實驗理學に比すれば、其思想幾分か廣濶寬大なりき。氏の屬續するや國非を以て之を送り、合祭廟中に墓所を作り、其小壁の銘には「偉人の勳功に對する國民感思の記念」(Aux grands hommes la Patrie reconnaissante)

と書せり。其夫人は數十年間絶えず傍に在つて内助の功多く、氏に先つこと僅に數日にして死せしが、國民は敬意を表する感情により夫と同一の墓所に葬ることを許せり。然れども此先例は向後紛擾を惹起せずとも謂ひ難し。

ピエール・キュリー及び其夫人　化學及び其同盟なる生物學に於て諸の大發見陸續武を接し、第十九世紀の後半に於ける科學的の運動は爲めに大に光輝を放ちしが、同世紀の將に盡きんとする時更に一個の大發見ありて之を飾り、赫奕たる昭代に於ける掉尾の一揮なりき。事は一八九八年なりき、ピエール・キュリー(Pierre Curie) 一八五九年に生れ、一九〇六年に死すは其夫人と共に操業してウランニウム(uranium)の發見を分析しつゝありし際、ポロニウム及びラヂウムなる二種の新金屬を發見せり。キュリー君は純理研究の化學家なりしが、その最も夙に考究せし所は結晶體に關し、兄と協同して研究に従事せり。兄はポール・キュリー君(Mr. Paul Curie)にして一八五五年に生れ、又一個の化學家なり。一八八〇年中ピエール・キュリーは水壓電氣の現象を發見したるが、その後一八九五年博士の學位(科學の)を受くるるとき呈出せし論文は、蒸氣の溫度に於ける諸物體の磁氣的性質を論せり。ポロニウム

ウム及びラヂウムの發見は未曾有の珍事にして、科學界に一個の新エネルギーを附與せしが、この二金屬の性質は未だ委しく學者間に解得せられず。大發見ありしより後博士はこの神祕にして相關聯せる二物質の發光作用を精究せんと欲し、理化學校に一般物理學を教授する餘暇を擧げて熱心之に従事せり。博士は又實驗室に用ふべき有益なる科學上の器械數種を發明せり。嗚呼自然の潛勢力を發き出して造化の秘鑰を開く爲め終生全身の精力を集中し、更に進んで大々的の發見をなさんとして前途の希望十分なりしビーエル・キュリー博士は、一九〇六年の春巴里の一街を過ぐる時一貨物車の車輪に轢られて英魂忽焉天座に歸りき。博士は實に嶄新の科學を創始せし人なり。その科學の生るゝや赤裸々の儘直ちに之を一般の世界に提供せり。而して疑もなく其心は絶えずこの新學の諸問題に吸收せられ、之が爲め自己の身體に注意する必要を等閑にせしなり。斯人をしてこの慘禍に罹らしむるに於て馬固よりその責に任せずと雖、不幸を來せし直接の原因は實に馬に在りき。傍人の進んで馬を制止する暇もなく、轆轤たる車輪は博士の體を摧折せり。博士は滿天下の穎才が確乎不易の天理なりと憶

想せし科學上の原則と理法を激動破壊せし人、天何を怨んでかこの君子を激動破壊せしや。

ラヂウムが諸他の物質と合成せる鹽類は其後分析せられ、由て以てその原素の原子量は確定せられたり。此物質が宇宙間に形成せし原因と目的は神祕にして未だ明知せられず。然れども、佛國は諸他の邦國と同様に其發光作用及び之が應用法に關して研究と實驗を重ね、熱誠と耐忍とを以て事に従ふ。

キュリー博士の夫人はマリー・スクロドヴスカ (Marie Sklodowska) と名く。一八六七年を以て波蘭のワルソー府に生れしが、才智卓絶せる許多の自國婦人に倣ひ、研究の爲め巴里府に來れり。夫人元來化學の癖あり、ソルボンヌ學校に業を修めて顯明なる成績を示せり。是を以て女史がキュリー博士に嫁するるとき、業に已に夫を助くるに十分なる資格を具へ、一八九六年ベックレル(次に見ゆ)の發見したるウラニウム(一種の粘土中に在る金屬原素)が發光作用を有する秘密を闡明せんとして、博士が熱血を注ぎしとき、夫人も亦共に熱血を分てり。碩學の士と賢良の妻は久しく其試驗室に拮据勞作し、觀察と操業に一身を委ぬて辛苦耐忍せしかば、遂に

その效果現れて前述の如き絶大の発見を全うせり。これ實に夫妻二人の協心戮力に成れる偉業なりしかば、キュリー博士は名譽の一半を妻に分てり。此発見より後夫人は科學博士の稱號を得しが、一九〇三年中科學獎勳の目的に出でたるノベル懸賞はキュリー夫妻及びベックレルの三人に分配せられき。博士が非命の死を遂げし後ソルボンヌ學校はキュリー夫人に捧ぐるに一教授の席を以てせしが、佛國が高等教育に關し斯かる光榮を婦人に與へしは實に這回を以て嚆矢とす。

アンリー・ベックレル 最近に故人となりしアンリー・ベックレル (Henri Becquerel) 一八五二年に生れ一九〇八年に死すに關しては、キュリー夫妻に關する上説中に附記せし所を除くの外多く語るべき者なし。ベックレルは平素閑地に退きて單純なる生活を送り、自然科學の研究に耽りし人なり。少年の頃には土木家として立つ爲め教育を受け、暫らく土木を業務とせり。然るに自然的の現象に興味を寄すること非常に甚しかりしかば、繼て空氣の分極及び空氣に對する地磁氣の影響に關して重要な考究をなすに至れり。次で彼は或る若干の物質が發光作用を現するを見て一心にその問題に注意せしが、遂に之が動機となりてウラニウムを發

見せり。科學會院は其功績を表彰する爲め之を終身書記官に任せしが、幾くもなくして逝去せり。

同質異性體化學等 ルーバ (Lebel) 及びヴァン・ホッフ (Van Hoff) の二家は物體の原子觀及び分子真正の結構と稱せらるゝ説を基礎として化學 (英語 stereo-chemistry) を組織せしが、之に由り諸の自然物が如何なる化學的の成分を有するやを精確に知ることを得べく、之を精確に知り得たる結果、砂糖及び藍の如き物質を合成法に由り容易に製出するを得るに至れり。これ等の作業は年々實用的に傾きて益之を大製造に適用する趣向あり。而して化學的の手段を以て各種の食物を製造するは、現今に於てこそ空中に樓閣を畫くが如き思すれど、誰か此種の作業を適用して食物製造を實現せしむる時節漸く接近するにあらざるを知らんや。

諸種の瓦斯を液體に化するは主として佛國の化學家アルマゴト (Armagot) ケーベト (Caillet) ピクテト (Picot) の三人が研究實驗せしに由り之を實地に行ふを得るに至れり。

電氣及び電氣化學 電氣に關しては佛國は最大なる発見の名譽を受くること

能はず。然れどもアンドレ・マリ・アンペール (André Marie Ampère 一七七五年に生れ一八三六年に死す)は吾人宜しく之を記憶に存せざるべからず。アンペールは化學者にして又數學者なりしが、流電の現象及び電磁電の現象に關して洞察力甚だ強く、其著作中に論ずる所は頗る高遠に涉り、流電學を様々に適用する爲め暗黒なる徑路の榛莽を開きしが、頓て斯學の適用は之が爲め實現し來りて近世生活の狀態は大に變化せり。方今流電の力を測るに一般に其名を單位として幾アンペールと稱す。これ此學者が流電力に關して一個の法則を設けしに由れり(之をアンペール氏の法則と稱す)。

アンペールの設定せし原則を實際に適用せし率先者として卓立する者はマルセル・ドブレ (Marcel Deprez) なり。此學者はグラム (Gramme) の創作せし發電機に基きて電氣力送達に關する賞驗を重ねしが、都市等に電燈を點じ或は機械の原動力として電氣を輸送するに水力を利用する工夫を助くるに於てその貢獻せし所甚大なり。

更に近年に追ひ電氣を工業上の目的に應用する爲め新に發見せられし者あり。

電氣を用ひ物質を分解する方法即ち電氣分解法にして、化學家モワソン (Moisson) がヴォル氏の電爐に實驗を積みしこと之が大原因となれり。此分解法に由りモワソンは無數の新物體を得、且つ又諸種の金屬より諸品を調製する方法を大に簡畧ならしむるを得たり。蓋し電氣分解法は將來或種の天然產物を廉價ならしむる重要な方便となるべし。之を例するにアルミニウムは通常諸の礦物に抱合し、之を析出するは往時の難んせし所なりしに、電氣分解法を用ひし以來容易に之を抱合物より遊離せしむる事を得。製造家は輕々に之を得るに至れり。銅も亦現今同一の方法に由り礦物より析出せらる。斯く複合物より單體を得るのみならず、同一の原則を反對に適用して諸の複合體をも得らるゝなり。

數學と天文學 數學及び天文學の範域を窺ふに、第十九世紀の初葉又は中葉に於てはフランソワ・アラゴ (François Arago 一七八六年に生れ一八五三年に死す) 及びウルバン・ル・ヴェーリエール (Urbain Le Verrier 一八一一年に生れ一八七七年に死す) の如き著名の大家佛國人の間に鳴りしを見る。若し夫れ斯かる諸家を看過して更に近世に降る時は、吾人は四天王の名斯界に狼藉たるを見るべく、此四家の

事業は實に吾人の特に本書に説かんと欲する時期に現出せり。四學者の名はフェリクス・チヌスラン (Felix Tisserand) シー・アッシュ・ボワンカン (J. H. Poincaré) ビーエール・ジャンセン (Pierre Janssen) カミール・フランマリオン (Camille Flammarion) 是なり。此中チヌスラン (一八四五年に生れ一八九六年に死す) は諸の天體の實體を比較決定する方法を案出し、由て以て科學に貢獻せし功績實に大なりしが、之に加ふるに彼は又讀者を喜ばしむべき透明の筆を以て天文學上興趣なる諸事を文章にせり。此文學者の計算方法はラブラース (Pierre-Simon Laplace 一七四九年に生れ一八二七年に死す。又天文學にして數學者なり) の方法と根本的に相異りしが、その在世中は唯一部の人に知られしのみ。ジー・アッシュ・ボワンカン君 (一八五四年に生る) は純粹數理學の版圖に於て現今の佛國人に冠絶し、殊に代數學者の林に於ては一八七六年以來一人も之と光を争ふ者なかりき。科學と臆説 (La Science et l'Hypothèse) と名くる書は君の著作に係り、一九〇五年公にせられたり。

ビーエール・ジャンセン 近年物故せしビーエール・ジャンセン君は一八二四年巴里に生れしかども、其名によりて考ふるに本とスカンデナヴィア人なること疑な

し。君由來物質的の科學に關して名聲高かりしかば、日蝕を觀測する爲め一八六八年印度へ派遣せられ、此觀察の結果君は太陽の表面に在る許多の隆起物の性質を發見せり。日耳曼軍の巴里を包圍せる時、君は再びアルゼリアに於て日蝕を觀測せんと欲し、輕氣球に乗じて巴里を出でき。其翌年復た日蝕ありて君を亞細亞に誘ひしが、君が太陽の周圍に瓦斯狀の包圍物あるを新に觀測せしは此時にして、君之に附するにアトモスフェア・コロナル (atmosphère coronale) の名を以てせり。一八七六年政府は天文觀測所をモンマルトルに設立することを君に委任せしに、久しからずして之を巴里の近傍なるムードンに移すに決し、今現に其所に立て舊宮殿の位地を占む。一八九一年君の指揮の下にモンブラン峯 (アルプス山脈中の高山) の上に小測觀所の建設工事始まり、其名に因みて之をジャンセン觀測所と稱す。幾多の歳月に亘り君は此深山に多く時を費し、その間アルプスの祈寒風烈を極むる氣候に曝されしこと屢なりき。然れども君の如く造化自然の勢力を研究する學者には此觀測所こそ理想の隱遁所、勉強の望樓なりしなり。ジャンセンは又空中用羅針盤を發明せしが、輕氣球飛行者に有用の器にして非常の裨益を

與へたり。然れども從來説示せし如く君の研究は特に太陽一方に偏せり。その太陽を寫したる撮影は數多にして無二の價値を有する寫真集なり。君の著作としては科學に關する諸の論文あり。又科學院に寄せたる數多の文書あり。

カミール・フランマリオン君　カミール・フランマリオン君は現今天文學に關する佛國の著述家中、文章の魔力最も豊富にして、從て又人望最も隆き人なり。天文學の素養なき者には解得する能はず、興味を感ずる能はざるが如き事を説述敷衍し、好奇心に富める俗人に夥しく趣味を覺えしむるは君の狹持する才能にして、而も此才氣の著しく顯るゝこと驚嘆するに堪へたり。思ふにフランマリオン君は曾に天文家たるべき資質を具ふるのみならず、同時に又極めて活潑々地の奇想を兼有す。これ即ち他人に虚想を起さしむる力ある所以にして、頓て又著述を以て成功せし所以なるべし。君は固より嚴正の科學者たるに恥ぢず、されど傳奇小説の源泉も亦夥しく其心竅より湧出し、幾億兆里を隔つる許多の他世界を説き、動物の之に居住すべきを揣摩して其狀を畫き、宇宙六合の間に激變災禍の生滅起伏するを臆量して其様を寫す。斯くの如く筆を弄する爲め、輒もすれば臆

斷に失する事なしとせず。されど君の著述は科學の素養ある諸人の爲めにせるにあらず。此小區域の門外に在る一般の士女に讀ましむる爲めなれば、吾人宜しく之を諒とせざるべからず。然りと雖、吾人は君を以て天文學者間のジュール・ヴェルン(地理小説を以て有名なる人)と思惟せざるべからず。君の描寫する所及び君の學説として唱ふる所は盡く皆確乎たる眞理を根據とし、その好奇心を弄して空想を陳説するに至りても皆一々多少の根柢を有せり。思ふに君は人智日新の今日天文學上の觀測に由て吾人の學び得べき所を悉皆知悉せるなり。君は一八四二年に生れ、一八五八年には巴里天文臺の屬員となりしが、其後經度局(Bureau des Longitudes)に入りて四度寒暑を経たり。經度局は深遠奧妙の計算に於て嚴密無双と稱せらるゝ一なり。一八六二年に至り君の著「生物居住の諸世界」(La Pluralité des Mundos Habits)公にせられたるが、この一書は君をして直ちに世人と近接せしめ、著作者として輿望を喚起せし初めなり。一八六八年には君空氣流動の方向及び空氣中の濕度の狀態を研究する爲め數回輕氣球に搭乘せり。一八八〇年學士院は「通俗天文學」(Astronomie Populaire)を著はせし功勞に報する爲めモンテヨン懸賞

を君に贈れり。諸遊星の自轉に關して君は世の鑑衡と仰がるゝ一人にして、この諸星の自轉は各、自體の密度と直接の關係を有すてふ學說を公にせり。君の發行せし前後の著作は頗る浩瀚にして、一八八〇年以後に出でし者の中最も著名なるは「人類創造以前の世界」(Le Monde avant la Création de l'Homme)、「天上及び地上」(Dans le Ciel et dans la Terre)、「彗星」(Les Comètes)、「科學的觀察」(Contemplations Scientifiques)なり。

探檢 既往三十年間佛國の政府は大に亞非利加の探檢を獎勵し、其間幾回か探檢者を派遣して此暗黒なる大陸の諸地方を踏査せしめき。此諸の使命は何れも科學上の研究と稱せられしも、實は兼ねて又政治的の目的をも有し、佛國の勢力を亞非利加に擴張するは時宜に適する手段と思考せられき。マルシャン大尉(Marshall)はコンゴ河の流域なる山谷を攀縁し、一八九八年七月中ナイル河の流域内に在るフシダに達せしが、此使命は近世の外交史に供するに戲曲的の一章を以てせり。其後に至り佛國は南極地方の熱心なる探檢者を得たり。即ジュアン・シャルコー博士(Dr. Jean Charcot)なり。博士の父は神經病専門の名医にして、巴里なる廢婦教育所(La Salpêtrière)に於て歇私的里亞に關して實驗を積み、其結果は大に催眠術の

現象に關する攻究を獎勵するに至れり。ジュアン・シャルコーは一八六七年に生れ父と同じく教育病院にて暫時研究に従事せり。其後博士は醫學の講習を絶念し、古來未だ探檢せられざりし南極地方に關する科學的考究に心を委ね非常の熱心を以て事に當れり。一九〇五年遂にフランセー號に搭乘してハーヅル港を抜錨せしが、幾多の時月を経過せし後、パーマー群島、ブリスコー諸島、グラハムズランドの諸部分、其他諸の海圖を作りて歸國し、併せて又隨行せし諸の専門家の手に成りし博物學に關する許多の筆記を齎らせり。次で一九〇八年の八月彼はブルコワ・パー號に乘じ再び南極探檢の爲め佛國を抜錨せり。

人體測定學 アルフランス・ベルチオン君(M. Alphonse Bertillon 一八五三年に生る)の名はアンソロポメトリーと名と相關聯す。アンソロポメトリー(人體を測定して精密に其大き及び諸部相互の比例を發見し、以て相異なる時期に於ける大きを比較するを云ふ)は嶄新の一科學なり。否、科學よりも寧ろ一種の人體觀察法なり。君初め人體學を專攻せしが、其後人體測定の一法を案出して其組織を緻密にせり。此法の目的は重刑に處すべき大罪を犯して一旦縛に就きし者を異日再

び看破して確的ならしむるに在り。佛國の政府は此新法の效益を認めて之を採用し、一八八〇年中ベルチヨン君を擧げて巴里の警視廳に於ける身體測定課の長官に叙せり。但し該法は必ずしも數量に關する測定のみに限るにあらず、或は寫眞を取り、或は拇指の下面を蠟に押さしめて其波紋の狀を検す、之を要するに急速に同一人物なる事を認識するを目的とし、幾年を経過するも減すべからざる精確の證據を蒐集する術なり、而して之を完成して遺憾ならしめしはベルチヨン君の功なり。

自動機 自動機の操縦は次章「明暗の兩面」の下に之を一個の遊戯として論ずべし。抑、自動車の操縦は方今一般の流行となりたるが、第十九世紀の終の頃之をして盛大ならしめし責任は實に佛國に在りと謂ふも可なり。之を以て樂む者は社會の一小部分にして之が爲め社會の大部分が不便と煩累を感ずること頗る大なり。而して社會一般の被る害毒多大なるは各國皆然りと雖、恐らくは佛國を以て最とす。夫れ公衆往還の國道及び州道は娛樂の爲め徒行する者、馬車を驅る者、駝行する者、自轉者に乘る者の喜んで便を取る所、然るに自動車の縦横旁午して

より以來、この種の諸道は殆ど全く旅行者に嫌忌せられ、村道即ち甲村と乙村との聯絡を通ずる道路すら自動車の累を被る所少からず。凡そ佳麗にして修築完全なる諸道はこの新來の馳車に占領せられ、同一の路に由る諸他の行人は紛塵を以て窒息せんとす。而して其操縦者は傲然として車上より傍人を睥睨し、毫も自餘の通行者の爲め斟酌を加へんとせず。其速力に關しては一定の制規ありと雖、都邑に入りて監督者に誰何せらるゝ、恐ある時にあらずんば一切の法規を無視して敢て意に介せず。故に大道の附近に居住する幾萬の民衆は夏季の數個月間塵埃を混せざる空氣を呼吸せんと望むも得べからず。唯夜に入りて纔に稍此の苦を免るゝのみ。自動車の運轉が佛國に誘致せし事物の狀態實に斯くの如し。嗚呼便利の機關なると同時に害惡の機關なる自動車の制裁は立法家の頭腦を痛ましむる一個の問題なり。

自動車の操縦術を始めて案出せし者は佛國にあらず。然れども石油發動機の發明以後一躍之を利用して自動車の原動機とせしは佛國人なり。此發動機は必要に應じて石油の精より一種の瓦斯を發生せしむる裝置にして、此瓦斯は從來の

石炭瓦斯に代れり。
 佛國に於て自動車製造の大工場を創設せし諸人中、群を抜いて其名最も高き者はアルベル・ド・ディオソン君(M. Albert de Dion)現今は侯爵なり。君は一八五六年を以て生る。一八八三年中君巴里の附近ピエトリーに工場を建てしが、最初は蒸氣罐製造の計畫なりしも其目的は倏忽にして變じ、諸式の自動車を製造する大工場となれり。其後一八九五年に至り、ド・ディオソン君は佛國自動車俱樂部を創建せしが、其結果は非常に大にして、今日の如く自動車熱の旺盛を致せしは君及び其友ピエール・ジッパル君(M. Pierre Giffard)の此舉ありしに因れり。又萬國聯合自動車競走會幾度か開催せられしが、其主目的は佛國製の自動車を諸國に廣告するに存し、附隨の目的としては富裕の徒をして新式自動機關に興味を起さしめんとせり。此種の競走會中第一に催されたるは一九〇一年にして、巴里伯林間を競走せり。次でゴルドン・ベネット懸賞(Gordon Bennett Cup)の設定ありて新衝動力を流行に與へき。近年に及び上記の自動車俱樂部佛國に起りて又萬國自動車競走を開催せしが、その競走區は豫め數月以前より確定せられたり。一九〇七年及び一九〇八

年に於ける競走は佛國のセーイン・インフューケール州に行はれき。該俱樂部の開催せし此二回の競走中、第一回には伊太利國勝利の月桂冠を得、第二回には日耳曼其名譽を奪へり。これ奇なる成績なり。僅々數年前には佛國製造家の他國に優ること毫も争ふべからずと思はれしに、諸他の邦國之に劣らざらんと欲して、研究と精力と資本を自動車の製造に費し、以て佛國製造家をして一旦獲得したる領域の幾分を失はしめき。
 編織自由の輕氣球 一七八三年モンゴルフェー(Montgolfier)兄弟は空氣を熱して之を氣球に満たし、始めて之に搭乘して上昇せり。佛國人モンゴルフェーは兄をピエール・モンテグンと稱し、有名なる紙商なりしが、一七八三年弟ジョゼフ・ミカイルと氣球を發明して之に乗じ、其功に由つて科學院の會員となり、二千リヴルの年金を受けき。兄は一七九九年に死し、弟は一八一〇年に死す。此より以後今日に至るまで佛國は凡そ輕氣球の構造に關する一切の事に關し常に先進の位地に立てり。夫れ風の方向に隨て東西に飄搖する憂なく、舵を以て船を行る如く自在に方向を轉じ得べき空中航行船を構造する問題は天下人の久しく難しとせし所

にして、發明家は多年之に腦漿を費せしが、遂に陸軍中佐ルナル (Renard) 一八四七年に生れ一九〇五年に死すが佛國政府の保護の下にムードンに於て第一回の實地試験を行ふに及び解決の曙光始めて開けたり。一八八四年なりき。巴里人は捲煙艸形の一物空中に飄揚するを見て大に驚愕せしが、殊に此空中船が風と同一の方向に漂はずして大空に圓形の軌道を書き、最初上昇せりと思はるゝ點に向て針路を取るを見るや最も奇異の感に打たれき。是に於て人皆信すらく、佛國は操縦自由なる輕氣球を我有とせり。此一器恐らく戰時に非常の有用物たるべしと。然れども佛國人の希望は忽ちにして散せり。否、尙數年を経るにあらずんば之を現實にすること能はざりき。ルナンの輕氣球は失敗に終れり。その失敗せしは主として其推進力微弱なる爲め如何なる強力の風にも反抗して進行すること能はざりしに由る。其後所謂空中航行術なる者に對する一般人民の興味は久しく冷却せしが、現世紀の初に及び伯拉西人サントーデモン君 (M. Santos Dumont) 一八七三年に生るが佛國に於て實驗するに至り、航空熱再び沸騰し來れり。君は自動車操縦の要求に應ずる爲め構成せし發動機が力強大にして而も重量少きを

を思ひ、之を利用しなば實際有用なる飛行船を作出する問題を解決し得べきを確證せり。是に於て之を自家製作の氣球に裝置し、一九〇一年之に乗じてエーフェル塔を周行し、最初上昇せし點即ちサンクルーの附近に歸航せり。之に由り君はドイツ君 (M. Dautel) より四千磅の懸賞を受けき。此時より空中遊行術の一科なる氣球運轉術は迅速に且つ著大なる進歩をなせり。而して諸國諸邦に於ても操縦自由の輕氣球は一日も忽にすべからざる軍用物の必要物と思惟せらるゝに至れり。近來佛國政府はポールルボーデー君 (M. Paul Lebaudy) が此方面に於て有益貴重なる外撥者なることを悟りしが、君は技師ジュリオ君 (M. Julliot) の設計を基礎とし、巨資を投じて操縦自由なる輕氣球を製造せしめ、専ら之を軍事通にのみ用ひしむることとせり。君の力に成れる幾多の氣球には四十馬力の發動機を裝置し、現今之を用ひて長途の航行をなし得べきのみならず、風力極めて強烈なるにあらざれば何れの方向にも操縦することを得べし。

空中飛行術 空中飛行術とは空氣より重き機械を用ひ單に機械力に由て空中に上昇する力を人間に與ふる術を謂ふ。佛國に於て始めて此問題を解決せしは

前記のサントー・デモン君なり、一九〇六年君は之を明確に實證してアーチデト
 コン懸賞を得しが、空中飛行の原理に關する以上善く其目的を遂げたり、然れど
 も是より先き亞米利加人ライト兄弟 (Messrs. Wright) 既に該問題を解決し、實際の
 飛行に於て先導者たりき、これ世の熟知する所にして、デモン君が佛國に於て用
 ひし機械は合衆國に於て發明せし者を變形せしに過ぎず、その後アンリ・フル
 マン君 (M. Henry Farman) 及びドラグランジ君 (M. Delagrangé) が競争場裡に出でし
 爲め、デモン君遂に手を收めしが、この二君は平面板より成る飛行機を用ひ、二人
 とも同一の佛國製作家に構造せしめき、二家の成功は甚だ顯著にして、現今の事
 情を以て之を徵するに、將來飛行術は縦令必需の職分を果すに用ひられずとす
 るも、久しからずして一種の遊戯となるべし。

第拾參章 田舎の佛國

ラ・ブレイエール (John de la Bruyère) 佛國有名の著者にして、一六四四年に生れ
 一六九六年に死す、が佛國の農民が悲惨なる窮苦に陥りて品性壞敗せる状態を
 描寫せしより已に二百年有餘の星霜を経たり、氏の言を以てすれば、當時の黎庶
 は人面を具する野獸に類似し、堅忍不撓の精神を以て、礪礪の地を掘開し、洞穴穹
 窩に住して、黒色の麵麩と木根を食とすと、これ各人の已に讀んで知了する所に
 して、一般の世人は之を以て第一回革命以前に於ける佛國農民の狀態を正確に
 記載するものと思考す、されど吾人はその必ず過實の說なることを信じ、若くは
 唯國中若干の部分にのみ適用せらるべき説なりと信じて可なり、況や大革命の
 爆發以來農民の物質的狀態に非常の變化を來せしは、掩ふべからざる事實にし
 て、奴隸同様に豪族に依附従屬する境遇より富厚の境遇と政治に容喙する地位
 とに進みたるは、重大の發展ならんばあらず、見よ、現今農民を慰宥和解するは
 一般の政治家と内閣が常に少からず苦慮する一問題にあらずや、是に於て吾人

は明かに一個の矛盾存在するを認む何ぞや。夫れ農民の輩は古來の風俗と傳説を墨守して諸他の階級に比すれば遙に保守的の傾向を有し幾十世の間因襲せし思想即ち未開時代より傳承せし思想の酵母は今尙その心中に存在す斯くの如く革命の精神に背馳する意向を抱きながら彼等は恩恵を革命に受くること多大にして佛國民を組成する諸他の階級よりも深き徳澤に浴せり物質的の快樂昔日より大なるは革命の結果にあらずや身體と財産が往時より安固となりしも革命の賜にあらずや獨立自主にして他人の股下に匍匐するを要せざるも亦革命の致す所にあらずや斯く保守主義に忠ならんと欲しつゝ革命の爲めに幸福を享有すこれ吾人が矛盾なりと言ふ所以なり第十八世紀の將に黄昏ならんとする時慨世の志士は貴重の血液を流して社會幸福の種子を播き此種子は階級軋轢の爲め熱せられたる空氣に養はれて遂に今日の如く繁茂せり而して此鬱々穢々たる幸福の果實を最も多量に收穫せしは實に農民なり。

田圃の地主 往昔の農民を變じて地主となせし者は革命の力なり此變動を起せし當否は吾人の今爰に考ふべき事にあらず吾人は唯此事業が雄大なる社會

的の實驗なりしを言はんのみ而して該事業の正邪曲直は措て論せず目的は遂に成就せり抑土地を所有する農民は該國に必要な機關にして國民が最後の依頼とする所なり若し一個の國民ありて其性癖も習慣も共に保守的なれども若し黨派の爭戰ありて四分五裂せらるゝことあらんには此國民の最も必要とする者は所有權てふ強固なる繩索を以て土地に緊着せらるゝ無數の農民なり佛國は實に這般の境遇に立ち這般の民萌を必要とす何となれば土地を愛する情は愛國心を生ずる萌芽にして同時に又最も善く愛國心を保護する者而して所有權は土地を愛する情を生せしめて絶えず此情を發育せしむる根元なればなり故に空想に耽せずして現實を樂み自己の生れし村落の小天地に耕耨するを以て己れの分とし自ら稱して有地者と稱することを得る農民は高遠の推理と學問を待たず唯自然に湧起する本能に由り十分緊要なる社會的の眞理を悟るなり。

然りと雖佛國の疆内に布列する諸州を通じ農民の物質的境遇及びその土地に對する關係界皆一樣なりと思考せば誤謬此より甚しきはなし固より小地主は

到る所に存在す。小地主とは眞成に二三エーカーの土地を所有して自ら之を耕作し、或は妻子あらば數エーカーの地を有して一家共に之を耕作するものを云ふ。斯かる小地主は吾人の各處に見る所なれども、或る地方に於ては土地を數多の區劃に分ち、その一區劃の面積遙に英國の小農夫が所有するものよりも狭し、一人の所有し得べき土地の大きさは不定にして之を制限する法律あるにあらず。又土地を所有すればとてその農民に強ひて必ず米、稻を取り、種子を蒔き、或は葡萄を培養せしむる法律もなし。農民は自己の所有する土地を割て任意に之を鄰人に賣るを得べく、之を譲受けたるものは従前より一層大なる地主となるなり。土地膏腴にして價值最も大なる所に到ればこの傾向益盛にして、土地所有者の數縱令減少するも増加することなし。最初は微々たる農民なりしも、時月の進むに従ひ此買收併吞法に由り資本家の位地に進む者敢て稀なりとせず。此に至りて紳士農夫なるもの現る。即ち下等の農民より遙に高き地歩を占むる土地所有者にして、英國に於ける慣習の如き耕作者に其土地を借し或は分益法 (Métayage) を取る。分益法とは地主と小作人とが收穫を分取する法にして、一定の條件と風

俗に従ふて約を調ふ。但し風俗及び條件は地方の慣例に應じて同じからず。土地の分割。土地は實際之を耕作する人に平等に分割すとは曾て革命の唱道せし所なり。然れども何れの點より見るも佛國が此革命の理想を着々實現する方向に進めりとは思はれず。勿論繼承に關する法律ありて法理上にこそ父母の死後その兒女は平等の待遇を受け土地も亦之を遺子に均分するを旨とはす。然るに其實際如何を顧るに、却つて反對の方向に進まんとす。彼候かり、蓋し巧に法網を避くる方法あるは人の皆知る所にして、何國の人民も此術を解すること佛國人の右に出でず。

何れの處にか桃源あらん。佛國の有地農夫は苦楚憂愁を知らざるものなりと思惟すべからず。自ら土地を有して毫も借地料を納むる必要なく、自己及び妻子の生計費十分にして恰も一小桃源に生活する者なりと思惟すべからず。此類の農民中には有福にして榮ふる者なきにあらざれども、又英國の農業勞働者すら之と地位を易へんと欲せざるが如き貧困者もあり、要するに農民は概ね自然の事情と共に榮枯浮沈する者にして、恰も寸地尺土を有せざる者の如し。其所有す

る土は肥沃にして植物茂盛する者あり、或は地味瘠せたる汗邪にして殆ど不毛なる者あり、又都市城郭に近き爲め容易に菜蔬を鬻ぎ得て有利なる者あり、或は極めて不便の地に偏在するもあり、斯かる僻地に在る有地農夫は勢ひ其産物を非常の廉價に賣らざるべからず、賣り得て入手する所は眞に一掬の錢のみ、故に都市に住する勞作者は其賃銀の僅少にして必要の生計品を求むるにも足らざるより、自ら社會の奴隸なりと思惟すれども、偏地の農民を以てこの勞役者に比するに、二者均しく奴隸の境遇にして、毫も擇ぶなし、不充分なる衣食を得る爲め苦役に服せざるべからざる此境遇を奴隸の境遇なりと稱すべくんば、佛國の有地農夫中には實に多數の奴隸ありと謂ふべし、晨光の未だ熹微ならざるに鋤を肩にして蓬蘆を出で、終日暇あき息はず日没の後星を戴き露を踏んで野より歸り、苟くも戶外に勞作すべき事ある以上、數月も一日の如く同一の勞に服し、一年兩三回の宴節にあらずんば、羹汁に泳ぐ蔬菜と麵麩との外飽くこと能はず、水の外口にすることを知らず、これ實に微賤なる農民の境遇なり、巴里に住む勞働者に之を見しめば、誰か此生計法に由り命を繋ぎ得べしと思はんや、されど我土地

を耕作しながら、斯くの如き悲惨なる生活をなす農民は佛國に於て幾十幾百萬を以て數ふべし、而も彼等の斯かる方法を以て衣食するは吝嗇なるが爲めにあらず、土地の自然力が此以上の利得を與へざるを知らばなり、而して彼等は此瑣細なる利得にすら常に依頼すること能はず、地味と氣候は往々此恩恵をすら拒むことあり。

不羈獨立と希望 然れども農民の麵麩糲令厭、苦味を帶ぶることあるも、自から不羈獨立と希望の在るありてその味爲めに甘し、夫れ彼の奮闘は實に苦痛なり、然れども心身の爲めには却つて健全にして、社會に同等の地位を有する他階級の人に比較すれば、徳性を壞亂し、害惡を犯すこと稀なり、その食物は淡泊にして、或る地方にては滋養分甚だ缺乏す、されど之が爲め農民の生命短縮すとは思はれず、歸する所彼等は艱楚なる運命を有する代りに、自から諸の利益と報償とを有し、同階級中最も貧窶不幸なる境遇に在る者すら、尙且つ此利を受く。

諸地方の比較 農民の境遇が幸福なりや否やは大に其居住する土地の位地に關係す、之を例するに、沃壤に富み産物豊饒なるノルマンデーは、東方巴里に近接

して之に達すること難からず、西方は海洋に濱して港灣に乏しからず、諸種の産物中用ひ盡されざる剩餘は海港より之を英國に輸送して容易に販路を求め得べく、且つ之を船に積載するに税關の之を禁するにあらず、政府の欄柵之を防止するにあらず、英國に入りて、入市品税を納むるにあらざるなり、故にノルマンディーに土を有する農民はブリタニーの曠野に在る農民又は中部及び兩部佛國の燒墾なる山地若くは砂石多き平野に住する農民より富裕にして、其有する土地の廣さ後者の所有地より遙に狭きことあるも、尙此利益に拮す、之に加ふるにノルマンディーの農民が資本を蓄積して社會の地位漸々上進する時は、自己又は専ら其子孫は漸々父祖の業たる農事生活を放棄する傾向あり、約言すれば社會に地位を得んとする抱負は屢、地位を得しむる資源と相軋轢す、但しこれ獨り佛國にのみ認め得べき現象にあらず。

成功より起る弊害 富饒繁榮なる農業地例へばボーンズ州(Bain's)の肥沃なる穀物生産地及びノルマンディーの諸部分に住する有地農夫を以て腐敗せる農民と稱すべき十分の理由あり、彼等は成功せし爲めに腐敗せしなり、何を以て腐敗す

と言ふか、彼等は屢、美味膏粱に飽き、麴糵に耽りて泥酔し、縦令鄙陋の手段を用ひざるも利を求むるに鋭く、その思想と嗜好は現實的にして野鄙なればなり、由來物質的の隆盛は人を腐敗せしめ易きを以て、若し心智を鍊磨して之を矯正するにあらざれば、下劣賤陋の習慣を養ひ、輕侮反撥の品性を増長せしむる危き傾向を有す、若し徳義を鍊磨して之を矯正せずんば、此傾向殊に甚しきに至らん、娛樂を享くること容易にして高雅の理想を缺く人物は即ち爛敗の種子にして、我家族を破壊する有力なる素因なり、見よ、佛國の繁榮なる農業階級には出生率著しく低し、これ社會に現るゝ腐爛の二兆として注目すべき事實なり。

然れども若し佛國の有地農夫は概して繁榮幸福の人なりと言はゞ、人を誤らしむること此より甚しきはなからん、熟考ふるに、何人と雖佛國の農民の如く絶大の勞苦を忍んで作業しながら生計に窮乏するものなきに似たり、繁榮の運に逢ふて安逸の生を授るは唯土地を賃して生活する少數者のみに止まり、未だ曾つて斯くの如き幸福を知らざる地方は頗る廣大なり、例へばコーレーズ、アルデー、コルーズ、アデル、ロゼの諸州の如きは地味瘠せたるのみならず、氣

候亦宜しからず、粟、蕎麥、馬鈴薯の外産出する物殆ど皆無なり。故に此諸地に在る農民は粟と馬鈴薯を以て主食物とし、其飲料は水にして、時に杜松の實を以て之に香氣を附するのみ。

原始時代の耕作法 土地を所有する農民中極めて簡單なる器具のみを以て耕作するものは半數より遙に多し、佛國中殆ど總ての州に住する人民にして蒸氣犁又は刈草機械を見し者すら多からず、尤も或る便利なる地に於ては其農業近年益々科學的となり、勤勞を省くべき諸機械の使用大に増加せり、然れども一般の狀況は未だ決して然ること能はざるのみならず、今後も依然斯かる氣運に向ふことなかるべし、如何といふに土地は無數に分割せられて各自の所有甚だ狭少なれば、之を所有する農夫の解決すべき問題は幾百エーカーの大土地を有する資本家の解決すべき問題と全く其趣を異にすればなり、斯くの如き事物の狀態が果して一般の幸福を促進すべきや否やは經濟上最も重大の關係ある問題なれど、本書の範圍を越ゆるを以て吾人は茲に之を研究せざるべし、現今見る所の如くんば農民は概ね尙太古の耕作を遵守し、その唯一の器械は一鈎の鎌、一把の

連枷、一牛に引かしむる犁鋤にして、南方高地の石田に在つては昔時の羅馬人の如く木を以て犁鏡を造る、斯かる未開の狀態は軌近の利器を適用する農業家の賤んで蔑視する所ならずんばあらず、されど古雅の風景を好愛する心を以て田舎生活を見、菜蔬麥粟を植うる太初の方法を以て野趣ありとする諸人は、佛國に於ける質朴粗野なる原始時代の風を見て無限の快樂と興味とを生ずる源泉とす、而して今日まで此質朴粗野の風を保存するものは即ち有地農夫なり、然るに惜むべし詩趣を添ふる連枷は住民最も稀薄に、且つ最も貧窶なる諸地方を除くの外漸々消滅せんとし、枷々交、下り聲々相應じて太初葛天の民を見る思あらしむる風趣は殆ど全くその跡を絶てり、斯くて打禾器械は往日の連枷に代りて蜂の鳴くが如き響を發し、之を貸す者あり借る者ありて一具は各處に遞送せらる、或る所殊にノルマンディーに於ては打禾器を動かすに蒸氣力の代りに馬を用ふる者あり、馬は踏板の上に力役して奇怪の態見る者をして笑を催さしむ、サイダ

ーを造る爲め林檎を碎くにも亦同一の方法を用ふ、
分益法 農作地の分益制は今なほ盛に佛國に行はるゝを以て、吾人は聊か之を

説叙せざるべからず、此制度は蓋し該國の風俗之をして然らしめし者の如く、而して地方に從ひ大に差違あり、葡萄酒の醸造を業とする地方を除くの外、南西部の諸州に在つては農民の階級にあらざる地主一般に此法を採用す、地主は多く田舎に大館を營築して之に住し、何れの所に於ても此館を稱してシヤトーといふ、シヤトーは廣く封建時代の城寨を繼せしもの、若くは城寨の如く構造せる邸宅にして、柱々之に接するに二三の小田圃を以てし、各田圃に小作人の一家を設く、斯かる場合には此田圃を名けてメテローリー(Metairie)といふ、小作人は毫も借地料なる者を納めず、宛然其家及び土地の所有者かと思はれ、已に之を占有する代價を償ひし者の如し、小作人と地主とは共に田圃の産物を以て収入とす、故に兩者とも力を協せて相互の利益を圖るを事とす、二者の相約する條件は地方に由り多少の不同あれども、普通の慣習を以てすれば、地主は耕作用の器具、種子、家畜を給與す、時ありて二者が家畜を共有物とすることあり、耕作に使役する牛の如き是なり、メテローリーに飼育する家畜の配分法に關しては一般の規則なし、小作人にして收穫の一半以下を受くる者あり、此場合には通常之をコロン(Colon)と稱す、地主若し適當の小作人又はコロンを得んと欲する時は健全にして用に堪へたる兒童を有する養育者を求む、田圃は概して甚だ小なれば、非常なる凶年饑饉に逢ふにあらずんば、一家數口を以て能く其一切の勞作を全うするに足るべく、常年には規約以外に收穫の餘分を給與せらる。

これ海に複雑なる方法にして、その能く成功する否とは一に貸借兩者の處置公平なる否とに關す、故に此制度の目的を達する爲め地主又は其家宰が田圃の附近に居住せざるべからざるは最も解し易き事なり、理を以て之に推すに兩者の異議非常に激烈なるべきが如し、然るに久しく之を實行し來れる今日未だ毫も此制の消滅せんとする徵候現れざるより見れば、種々の異論ありしに拘らず大體に於て圓滿に行はれたること必せり、然れども現今此方法の盛に行はるゝは主として耕作法が數百年間殆ど全く變遷進歩せざりし地方例へばペリポル、リムーザン、ケルシー等の地なることを注意せざるべからず。

紳士農 分益法に依頼する地主は概ね資本をも有せず、又著しき効果ある近世の農作法に據りて自ら所有地を經營する企業心をも有せず、彼等は多く紳士農

(Gentilhomme campagne) なり紳士農とは田舎紳士と全く同一の意義なるにあらず。彼等の祖先は數百年間小貴族と班列を同うせしが、今彼等も往々尙同一の班列に在りされど革命若くは其他諸の變遷に逢ひし爲め、遂に日々農民と密邇して居住するに至り、その結果大に農夫の質朴なる趣味と習慣とに化し、思想の區域も亦大に野人に類し、剩へその方言をさへ摸倣するのみならず、時ありては純正なる佛語よりも容易に土俗の俚言を用ふるものあり。之を見る人或は謂はん、彼等に隸屬して衣食する農民は譬へば政治上の自由てふ裝飾を身に着くる臣僕にして、その所有する土地は農夫と同様に智を要せず心を苦めず空しく自然の運命に任されたり。今若し過去傳來の遅緩なる習慣一掃せられ、進歩發達せる耕作法を其土地に用ふることあらば、知らず此地主と農民とその境遇果して孰れか優れるやをと、而して舊慣を破り新耕作法を起さんとならば、唯資本を農業地に注入し、大土地を少數者の手に集中して始めて其目的を達すべし。然れども土地集中法を實現せば、其結果農民は勞作する地を自己の有とすること能はず。勢ひ必ず之に通られて益、人烟稠密の城市都邑に走るに至らん。

紳士農は佛國に於ける諸種の人物中吾人の最も興味ありとする一にして、此階級若し消滅せば風俗生活を研究する人の失ふ所頗る大なるべく、其損失は再び回復し難かるべし。夫れ紳士農は少くとも中等階級に屬する尋常の佛國人と同じく識書に由つて智識を有し、其中には教育の非常に高尚なる者少からず。教育は中等階級に於て恐らくは其精神と稱し得べき要素にして、彼等は祖先以來奕世此精神を継ぎ來れり。故に質朴粗野なれども、下劣卑陋の弊なく、一般に懇篤の情を含んで眞率安舒なり。又企業心に乏しくして、現今流行する商業的思想と科學的の法則とに適合する能はざるは其缺點にして、今日の世に處するや恰も自動車の旅行隊が疾風の如く募進する時、從來靜閑なりし村道の傍に避け茫然愕然目を測て、之を見る僮夫の如し。されど節儉にして質朴單純なる生活は善くこの缺點と均衡を保つなり。紳士農中には昔時領土を有せし貴族の遺棄少からず。然れども近時の貴族を見るに唯錢神のみを保存してその他一切の神を放棄するを急ぐ者の如く、其高尚なる舊格を維持するよりも寧ろ其外面を虚飾せんと切望す。故を以て吾人は試に問はんと欲す、貧しくして朴素なる紳士農の生

は方今の貴族よりも更に高尚にして威厳あるにあらずやと。

葡萄酒製造者 葡萄酒を培養して酒を醸造する者は農業者の中に在つて別に一階級をなし、佛國に於て甚だ重要な地位を占む、但し此種の農民を説くに當り吾人は著名の葡萄酒を有するを以て恰も快遊船を有すると同様に一種の娯樂とする富人を除外せざるべからず、聲譽の高き葡萄酒を貯藏しながら之を他人に販賣せざる富力を有するは、名聞を求むる一手段として久しく世人の知る所なり、往時斯かる銘酒は名を博し譽を食する具にして、唯王及び高僧の口に薦めし所然るに佛國に於ては現今其醸造の目的一變し來り有名なる葡萄酒貯藏備と葡萄酒とを所有しながら行き之を見ること稀なる富人は栽培と醸造に投資せし資本より能ふ限り利益を收得するを以て一般の規則とし、又縱令利益を得ずとも可及的損失を小ならしめんとするもの少からずされど大栽培地を有する此類の地主はなほ且つ稱して葡萄酒醸造者とすること能はず、彼等は半爰に論ずべき耕作者の階級に屬する者にあらず、今論せんとする者は佛國民中一箇の工業力となる耕作者なればなり。

葡萄酒醸造者とは自己の葡萄酒園中又は其近傍に住居し栽培に關する一切の事を知悉し、且つ葡萄酒を製造する術を通曉する人と解釋して可なり、斯かる人は極めて微小なる有地農夫なることあり、或は廣く社會に運動する十分の資力と設備を有する大農夫なることあり、或は一層大なる者に至りては勢力と權威とを兼ね備ふる位地を占む、ポルドーは頗る廣大なる酒郷にして之に屬するメドックもサン・エミリアオネーも、ソートルネトもブレトエトも皆取て以て之が例とするを得べし、この地方には到る所この種の大葡萄酒園所有者ありて自ら耕し自ら剪み自ら酒槽を準備し、自己の手を以て大樽に盈たすが如き小農夫と壤土の畔犬牙相接す、但し全國何れの處に到るも葡萄酒醸造者の過半は瑣細の資力と微小の志望を存する農民なり。

葡萄酒製造者の憂患 一八七〇年の戦争以前には佛國に於ける農業者中葡萄酒製造者の如く快樂の生涯を送る階級なかりき、然るに國家の大戦禍終つてより今日に至るまで多年此種の農氏は續々襲撃する新來の敵と戦へり、新來の敵とは何ぞや葡萄酒園(Plantation)葡萄酒の莖を腐蝕する害蟲(微症) mildew 細小なる菌の

發生より起る植物の病、オイヂウム (oidium) 寄生菌の一種の如き是にして、その他なほ多し、但し今日にては科學を應用せしと堅耐を以て事に當りしとの爲め已に此諸敵を征服し得たりと謂ふべく、或は全く之を撲滅せずとも必要の程度まで之を破壊して復た丘山平野の葡萄園を劫掠荒廢せざらしめたりと謂ひ得べし。されど農民は前門に虎を防ぎ得て更に他敵を後門に受けたり、此新敵は蟲にあらず菌にあらず過度の生産なり、抑、東は亞爾伯山脈より西南ピリニース山系の支脈に至るまで地中海の沿岸を走りて延長する極南の諸州、即ちミディ (Midi) 南國の義と稱せらるる、廣漠の地方は一旦葡萄蟲に鹵掠せられて凋殘零落せしが、其後亞米利加産の葡萄が能く此種の害毒に抵抗する力あるを發見せり、是に於て最も早くより害蟲毒菌の侵寇を受けて頭を悩ませし農民等は、葡萄酒拂底の時に乘じ機先を制して奇利を贏ち得んと欲し、全力を擧げて急速に米國産の苗を種えき、斯くする中ミディの大地方は新種葡萄到る所に栽培せられ、従來葡萄園にあらずりし田園すら此目的に供せられしが、新葡萄は佛國産の舊葡萄に比して果實を生ずること迥に豊富なりき、然れども新葡萄を以て釀製したる酒は

往時ミディの地より産出したる醇釀と同一の價値を商業場裡に維持すること能はず、品質の劣等は價格を低廉ならしめたり、南國の葡萄酒醸造者は始めて豫期の遂げざりしを悟れり、縱令稍豫期の如く利を得ることありしも眞に頃刻の間に過ぎざりき、但しシロンド (ポルドー) 地方に屬す、ブルガンディー、シャンパーニの葡萄園は蟲害の爲めに損失を受けしも、ミディ地方の園圃の如く猛烈なるに至らざりしが、その主原因を尋ぬるに此處に在る醸造者は徐ろに他處に於ける經驗に鑑みて自ら利することを得たるに由る、偕て南方に於ける濫造により生産の過剩を來したるのみならず、屬地アルゼリアに於ても廣く葡萄の栽培葡萄酒の醸造を營みし爲めに廉價なる酒は滔天の勢を以て佛國に注入し、以てミディの主産物と相競争せり、是に於て葡萄酒過剰の危機は益、増加し來れり。

葡萄酒醸造者の叛亂 上述の説明は一九〇七年に起りし葡萄酒醸造者の叛亂 (英語 wine-growers' revolt) の眞因を明かならしむるに必要なり、此叛亂の結果ナルポンの市街に匪徒動亂して死者を出し、地中海附近の諸州は無政府同様の状態に陥り、人心洶々として不安の思を抱けり、然れどもクレマンソー内閣の巧妙な

る政策に由り叛亂は終に鎮靜に歸せり。當時販賣價格の極めて低廉なりし爲め窮困せる醸造者は一般に喧囂叫喚して曰く、吾人の倉庫には葡萄酒充盈するも之が販路を求むること能はずと。此叫聲は全く虚偽にして、販路の絶無なるにあらず。實は價格低廉なりしなり。而して諸の詭譎なる術策を弄せしは幾分か人民を困弊窮迫せしめし所以なること疑なしと雖、今日地中海沿岸諸州より産出するが如き品質劣等の葡萄酒を商業界の需要以上に醸造せしこそ實に困厄を致せし主原因なり。

保護 葡萄酒醸造者は佛國の土より生ずる天産物中價值最も多き者を外國に輸出する者なり。故に從來同國の富力を増加するに於て大に功ありしのみならず、今日にても依然國家に貢獻する所大なり。然らば彼等が自らその不遇の地に在るを歎じ、同じく土に由て生活する諸他の農民が法律の補助と保護を受くるに拘らず、己れ等は斯かる恩典に與からずと信ずるは幾分の理由なしとせず。然れども外國産の葡萄酒の輸入を防遏する爲め如何ばかり苛酷の保護税を課するも、佛國の葡萄酒醸造者は決して穀物及び甜菜を作り若くは馬牛羊豕を飼育

する農民が現今の關税法より受くると同様なる利益を受くる能はざるべし。且つ又醸造者以外に在る一切の農民階級は過重の輸入税に由りて厚く保護せらるゝに拘らず、尙且つ自ら政府に納むべき税額の重きを怨むこと甚し。故に今假に農民に對する保護を廢し佛國の諸港を開放して外國の産物を無税にて輸入せしむるが如きことあらば、立法府は地租の制度に大々的の改革を加ふるか、將た又幾百萬の農民を溝壑に驅りて之を激怒せしむるが如き政治的大珍事を惹起するか、二者その一を採ふべきこと確實なり。而して地租の制を根本的に改革するは實際上不可能なると同時に萬民の暴怒を挑發するも亦國家の堪ふる所にあらざるべし。

農事労働者 佛國に於ては農業に使役せらるゝ労働者の位地英國に於けるが如く重要ならず。其理由は説明し難からず。その主因は同國は有地農夫の制度に由り田園に人を雇役する必要なきことなり。之に加ふるに分益耕作廣く行はれて雇役者の必要益減少す。何となれば分益制の小作人は其實有地農夫にあらざれども、所謂労働者と稱すべき者にもあらず。地主と協同して其地を所有するが

如ければなりされど真正の農事労働者は賃銀を得て、勞役に服する者にして、若し自己の不運なる境遇を嫌ふが如き性質ならんには、恐らくは正々堂々の理義を以て社會と論争すべき材料を發見せん。されど概論すれば、労働者は這般の人物にあらざるを常とす。彼等は極めて耐忍にして、恰も昏睡せるが如く奮力活動する世界と隔離して極めて文明界の生活状態に暗く、爲めに紛争を起さんとす。る智力も勇氣もなし、或は又無知蒙昧なるに拘らす一種自然の哲理眼を具へ、紛擾叛亂を企つれば物質上自己の境遇を幸ならしむるを得べけんも、境遇の變化に由り心却て安からず身體却て健全ならざらんことを洞察するにあらずやと思はる。此輩は一般に總ての事物を平易に解し、求むる所少くして長く生存する人物なり。思ふに彼等は或る他種の勞動に従事する者の如く苦役に服することなし。されど其食物極めて粗惡にして、心身の健全を保持し生命を維持すべき最小量と謂ふべく、自ら阻勉して悲運を脱せんとするは殆ど望み難し。而して彼等は革命の起りしが爲めに爾來非常の利益を受けしが、革命以前の境遇は殆ど吾人の想ひ及ばざる所なり。然れども甚しき荒年にあらずんばなほ且つ今日の如

く生存し得たりしならん。其頃此輩の勞作耕耨せし土地の所有者は現今の雇役者よりも多大の注意を是等の徒に與へしやも知れず。然れども彼等は現今の如く自己の自由を有せざりしなるべく、現今の如く教育を受くる利益をも有せざりしならん。方今の農事労働者中時としては一層多大の自由を享有せんとする慾心を起し、一層多量の金錢を得一層多量の娛樂を受くること不可能にあらずるを悟る者あり。此に至り彼等は年齒尙少ならば自己の森林若くは山谷を去て都會の地に趨く。都會に入るや若し其筋肉健全にして勞作の熱心強く且つ力に適する職を求むることを得ば、再び労働者となりて異種類の役に服す。是に於て其職の絶えざる間は生活の状態大に進歩し、食ふに肉あり、飲むに酒あり、珊瑚とゾラシデーも亦恐らくは之を口にするを得べし。然れども職を求むる道一朝杜絶せば如何、半死半生となりて路頭に倒るゝにあらずんば、時兒となりて餘孽を戸々に求むるの外なし。その初め舊業を抛て都會に赴かんとするに當り、誰か將來幸運に遭はんか一層否運を招かんかを知る者あらん。此秘密の消息は恐らくは誰人も解する能はざるべし。

小栽培 葡萄の耕作と葡萄酒の醸造は佛國人の最も得意とする所、農業中彼等の最も秀づるは市場に販賣する野菜を栽培する園藝にして、*厩之を小栽培 (La potée culture)*と名づく。小栽培を業務として成功するは巴里の近傍に如くはなし、驚くべく巧妙に一小方地を經營して之より最大量の産物と利益を抽出するは、清國を除くの外吾人之を巴里の郭外に見るを得べく、自餘の處恐らくは決して及ぶこと能はず、其菜園を見るに一家數口の食用に供する爲め通常別墅に附屬せる小園より大なるを覺えず、然るに之を業とする者の眷屬は此尺土に住居するのみならず、安易に生活して且つ金銭をさへ貯蓄す、且つ又野菜及び果實を培養するを職とする此小農夫は人を雇ふて園藝に従事せしめ、而も之に給する賃銀は廣大なる田圃を有し、米麥までも作る農夫が奴僕に給するよりも多し、但し此小栽培者の成功する否とは主として其住居する位置の如何に關すること勿論にして、販賣の利便は巴里の四周に在る園藝者を勉勵せしめ利を征するに敏ならしむる要素なり、而して此職業中利益最も多くして最も確實なるは、冬季及び早春の生菜、例へば苜蓿及び諸種の菊苣、莖等々を培養するに如くはなし、此業を

營むには硝子製の鐘狀防寒器必要にして、此單純なる器具の發明は人に最大の效益を興へたり、寒威甚しき時強ひて植物を生長せしめんとするには太陽の熱最も吃緊なるを以て、斯かる季候には硝子防寒器を用ひて毫釐の日光をも利用す、而して寒中の生菜及び早春の菜蔬は實に硝子に掩はれて其下に生長すと雖、當業者各、丹精を費して規律正しく之に従事するを以て、殆ど總ての人はその産物を得て時ならざる香味に舌を鼓するを得べし、寒風凜冽の候菜蔬を食とするは曾つて世人の奢侈と思考せし所なるに、今は之を培養する機關完備せる爲め幾萬の常人は復た之を奢侈物とせざるのみならず、却つて日角必需の食物と思惟するに至れり、巴里市に隣る野菜園藝家は業を始むるに多少の資本なかるべからず、何となれば幾百個の硝子防寒器は多大の出費を要すればなり、農業組合と農業銀行 曾つて第二帝國は殆ど全く保護貿易の政策を放棄して自由貿易主義に傾きしが、近世に及び再び保護政策を復興せり、而して第三回共和政府の下に農業の危機起りて多年國家の累をなせしが、此危急の狀態を軽減せしは疑もなく此政策の復興に負ふ所あるなり、然れども保護政策以外に諸の

勢力起りて大に農民の階級を窮地より救へり。諸勢力中最も著名なるは一八八四年以來相互に維持補助するを目的とする大規模なる農業組合の組織と農業信用會社(Société de Crédit Agricole)の設立なり。此種の信用會社は資本缺乏する窮困の農業者に資金を融通する銀行に外ならず。然れども又一定の限度まで保證者の位地に立つ者とす。農業組合は從來化學肥料及び農業機械の使用を普及せしむる爲め大に力を用ひ、有地農夫に土壤を經理する最新の方法を熟知せしめ、併せて經理法の理論をも教へたり。而して農民中已に老境に入れる者は陳腐の説舊弊の見を固執して容易に耳を新説に傾けざれども、少壯者は多少時世に従ふて推移し、智識の開けたる地方に於ては殊に近世の學說の尊ぶべきを知れり。且つ第三共和國が農學専門の諸學校を設立し、農民の思想爲めに大に進歩せり。煙草栽培、煙草の栽培は佛國に於て一種の特權となれり。何となれば其の莖葉も未だ切らざる以前早く已に政府の財産と定めらるればなり。煙草の葉已に剪伐せられて特設の假令中に適當の度に乾燥したる時、政府は獨斷を以て其價格を定め、各栽培者より之を買収す。而して煙草の栽培行はるる地には政府の官

吏出張し、種子を分配し、莖の數を計算し、剪伐後新に發芽する時は之を抽き棄つるに注意する等、其他凡そ農民をして國產稅局を欺罔せざらしむる爲め全力を用ふ。煙草栽培の特權は諸他の特權と同じく唯之を政治上嫌疑を受けざるもののみ許與す。此特種の耕作行はるるは風土氣候の状態が煙草に適する二三の州にして、之を培養するは同國の南西部を主とし、ガロン、ドルド、ゴの二川及び其支流の經過する温暖なる流域は沖積層に屬する肥沃の淤泥地にして、濕氣十分なれば、殊にこの植物の播種盛なり。煙草の品質は産地の異なるに従ひ大に不同あり。買收價格は固より品質の良否に應じて高下す。精良なる葉は葉捲煙草を製するに用ひ、その餘は之を嗅煙草及び刻煙草に用ふ。乾燥せる原葉の買收價格は重量一磅に付半法を最高とす。佛國の産品を以て始めて嗅煙の嗜好を起せし者の外は、その最良品をすら粗悪喫するに堪へずと思考す。されど佛國人は平素之を用ふるに慣れ、政府の製造場より出す煙草にて十分満足するに至れり。たゞ國人が自國産に關して苦痛とする所は專賣局の販賣する代價の不廉なると、包装中に木片等の雜物を混するの多きに過ぐるとなり。

第拾四章 明暗の両面

算籌的の國民 佛國以外の諸國相傳へて云ふ佛人は世界中最も浮薄輕佻にして快樂に耽る國民なりと、而して佛人も自らその實に然ることを半ば信せんとするが如し、然れどもこれ甚だ誤れる見解のみ、佛國人は最も勤勉にして最も慎重、而も最も算籌的なる國民の一なり、彼等の算籌は頗る密にして其快樂をすら精細に計算す、否寧ろ快樂に耽る方法を精算するなり、公衆の會合する所に生ずる快樂は一般人民の多く味び知らざる所なれど、若し斯かる機會に遭遇することあらば、能ふ限り娛樂の情を縦にするを常とす、故に衆人と共に歡樂する際自ら楽しんで狂するが如きもの吾人唯佛國人に於て之を見る、思ふに彼等は一種の理論を快樂に應用し、苟くも歡樂する時は宜しく心を空うして大に之に耽るべしとするなり、これ其天與の性狀にして學んで得べき所にあらず、佛國人の真相を解せざる多數の人が彼等に關して論斷を誤る所以は即ち之に由れり、中等階級中の下層に在て勞動に従事する佛國人は、心に娛樂を感ずる時喋々多

言して甚だ露しく、情意の發作に従ふて舉措を縦にする風あり、これ感情の甚しき時之を人に示さんと欲するに由る、然れども又娛樂を心に藏して外面に現さず若くは公に示さず、唯妻子にのみ之を分たんと欲するものもあり、要するにその氣質と教化に由りて各自趣を異にするなり、自ら謹んで猥りに歡情を漏らさざる風は今日佛國に於て吾人が往時よりも屢見る所、而も同國人民の特徴にあらず、情ら事物の關係を察するに、嬉々として心情を外部に表示する性の發達は、大に日光の強弱に由るもの、如し、蓋し佛國の南半部に住する人民は多少にても心に悅樂を覺ゆる毎に忽ち之を外面に現すこと北半部の人民よりも更に甚しき所以なり。

諸種の對照 佛國は諸種の點に關して對照の甚しき國なり、その中天然の狀態に於ける對照は殊に著しきも、徳義及び社會の狀態に於ては然らず、試に其一端を擧げんに、同國に於ては氣候を撰擇して各自欲するが如き風土を求むること極めて易く、北方の海岸一帯の地は寒氣凜冽朔風吹き荒むを以て、最も豪快なる東北風を好む者を喜ばしむべく、之に反し南方地中海に沿へる海邊は氣候溫暖

にして就中隠蔽せられたる所は其暑きこと熱帯附近の如し。これ其天熱の狀態に關する相反の一例なり。次に其人民は如何といふに、習慣及び生活の兇弊に於てのみならず、其性狀に於ても明暗の二面あり、三面の差違は今日こそ未だ極甚ならざれども、漸々増加する傾向を有し、間斷なく進んで極端なる對照を生ぜんとす。

耐忍 吾人若し佛國民は世界中忍耐力最も強き者の一なりと言は、同國の歴史中最も甚しく戲劇の趣を有する部分を讀んで彼等の性狀を速断せし諸人は、稍奇怪の感を抱き、吾人の悉く知る如く、佛人は時を發憤して咄嗟に非常の活劇を演出し、而もその發憤は屢、甚だ正鵠を誤まれり。激情の爆發最も慘烈を極めたるは其歴史に於て恐怖時代 *The Terror* 第一革命の繼續中最も殘忍酷烈なりし時期の名にして、一七九三年の三月より翌年七月に至る間を指すと稱するものなり。その以後にも幾回か大爆發と大變亂を生じたるが、該國人は耐忍の性に缺如する國民なりて、ふ想像は益、外國に流布せり。これ眞に錯謬せる説にして、同國民が政治局面に起したる激亂を細査するに、人民が耐忍に過ぐることを主と

して這箇の激亂の因となれり。唯夫れ耐忍なり。故に彼等は宜しく各種の惡弊を洗除し、迂愚なる形式を破壊して煩累なる繁文縟禮を脱却し、倨傲なる官吏の尊大にして下民を藐視する風を矯正し、實際的なる全般の福利を起す爲め自己の勢力即ち輿論の勢力を以て立法院を壓迫するに勉むべきに、事此に出でず。その勢を厭ふて袖手傍觀す。唯夫れ耐忍なり。故に彼等は自ら必要と思考せざること及び自己の良心も理論も是認せざる諸事を舉げて立法官の取捨に一任す。而して自己の職務が政治に關係せず、又政府の施設が甚しく自己の物質的利害に影響せざる時は、痛痒相關せざるが如く之を放任して殆ど全く奮起することなく、英國人の如く自家の尊奉する主義の爲めに動亂を起すを好まず。茲に彼等の心性狀態を説明する一好例あり。事瑣小なるが如きも亦更に重大なる諸他の場合に適用するを得べしと信ず。佛國の熾寸は政府の專賣にして人民一匪につき皆一片を出す。而して之を開かば少くともその十分の一は用をなさざる廢物なり。これ一般の佛國人は政府が賣品に附せる代價以外に十分の一の價を拂ふなり。今若し一個の商人が不正の分銅又は度量衡を用ひなば政府は直ちに之を罰し

て容赦することなし。政府が燐寸に廢物を混するは商人が不正の衡器を用ふると理に於て異らず。然れども政府は自ら不正を行ひながら自ら罰するを得ざる故、人民は之を以て矯正すべからざる弊害を考ふるに至れり。若し人民が政府の眼を竊む機會を得て十中の八九まで密賣の燐寸を買ふに至らば將た之を奈何せん。密賣者の燐寸は常に價の低廉なるのみならず、品質もまた粗悪ならず、之を政府の製品に比すれば大に信頼するに足れり。行政廳の一部に「レジール(Regis)」といふ處あり、間接國税を課する局なり。レジールを欺瞞するは同國に於て徳行の一なるが如く思惟せらる。事能斯くの如き豈に悠然にあらずや。然れども人民を此に到らしめしものその資恐らくは「レジール」に在らん。レジールの評は甚だ宜しからず。其處置常に公平ならずと稱せらる。而して其職業は全く競争の恐なき商人の地位に在り。若し佛國の人民をして斯かる明白なる缺點を見て耐忍すると能はざらしめば、斷然政府の專賣權を剝奪せしなるべく、或は專賣權若し國家の歳入を引くべき有利の源泉にして之を奪ふことを得ずとならば、現在の組織を改良して遺憾なからしめたるべし。然れども耐忍なる佛國人は改良を不可能事なりと

思惟し、甘んじて稅政の下に安んず。……
密賣商 次に掲ぐるは佛國の南半部に行はるゝ實事の記載なり。薄暮の頃一人の男子若くは婦人影の如く現れ來り、藩壁又は藩籬に接して潜歩微行し、頓て厨房の窓に向つて暗號を示す。戸内の人は能くこの暗號を解し、更に暗號を以て之に應ず。密來者乃ち一囊中より幾把の燐寸を出して之を戸内の人に授く。この燐寸は杉又は松の小塊にして、上部より下部まで數多の細片に割き、其上部は先づ熔融せる硫黃に浸して後更に之を赤燐中に浸せり。密賣は常に此方法に由りて行はる。此燐寸は何時之を求むるも製法良好にして善く用を辨じ、之を政府專賣の品に比すれば其價極めて低廉なり。その行はるゝ所在は今爰に之を舉示せざれども、之を示すこと難きにあらず。斯かる諸地に於ては人皆此燐寸を用ひ、之を求むる者の中には常人のみならず、長官市尹より以下總ての官吏をも包含す。斯くの如き状態なるを以て此密賣に従事する者は甚しき危険に逢ふの憂なし。然れども時々憲兵が密賣者を捕ふることありて、犯罪者は三四週間牢獄に投せらる。而して其間は犠牲に供せられたる者の家族中他の一人繼續して製造と販賣

に從事す。
 冷淡及び其危險 佛國人は柔和温順なる國民にして優游間適の生涯を送る事を好み、自己の操る作業若し極めて苦痛なるにあらざる時は之に満足して快適の口を送る。殊に其作業によりて瑣細の錢を貯蓄し、又は娛樂に消費するを得る時は最も満足して之に從事す。斯くの如き性質なるを以て彼等は政治に干渉せず、甘んじて他人の支配を受け、不平を唱ふべき許多の原因推積するまでは立法者のなす所を對岸の火災視して毫も相關せざるが如し。されど愁訴すべき原因漸々集積するや猛烈なる破裂往々にして起り、其激動の勢動、すれば非常の恐怖を生せしむ。由來耐忍の力に富める溫柔なる人民も、一旦政治界の激動を見て之が感化を受くる時は、忽ちに殘忍猛惡狂するが如き人民に變ず。而して憤激の方に盛なるに當りては其本來の性質隱蔽せられて殆ど之を認むる能はず。今日の佛國人は喩へば猶往時度々破裂して慘毒を流したる噴火山の如し。猛烈の噴出熄んで以來已に久しけれども未だ全く死火山となれるにあらず。人若し資本と勢力との間に在る緊張力年々増加する現状を見なば、則ち知らん、此噴火山口に

於ける弱點果して何處に在るやを。

自由と正義 自由及び正義の二事に關する佛國人の見解を窺ふに心理上頗る解し難き者多し。更に精確に言へば自由と正義は森嚴なる論者が人間の思想の優游自適する主要の樂地とさへ思惟する所にして、思想界の高遠なる絶頂なり。此崇高の地には具體と抽象との二者精密に合して一體となるべき理なるに、佛國人は夙に自由を呼び正義を叫んで向上の眞理を首唱しながら、其實地を見れば具體と抽象との二者は面相背きて合體せず。寧ろ、枘鑿相容れざるが如し。これ即ち吾人が佛人の心理に解し難き者ありと謂ふ所以なり。同國には百有餘年以來革命家蜂の如く起り、哲學家蟻の如く集りて、政治に關し將た社會の秩序に關して幾度か大々的の動亂を起し、全國の兆民をして自由は我等の發明せし眞理なりと思はしめたり。然るに非常なる諸事變より之を察するに、既往の百年間に於てすら理想的の自由は同國に於て唯僅に進歩せしのみ。之を認むるもの誰か其主義と實行との相伴はざるに驚かざらんや。第一帝國の時代、王政復古の時代のみならず、七月君政の時代、及び第二帝國の時代に自由は常に迫害せらるゝの

恐ありしが、第三共和政治の下に在つても亦自由主義の壓滅せらるゝ、恐あり、無論恐怖の程度とその現るゝ模様は昔日と異なり、然れども恐怖の種類は根本的に相同じ、若しその十分なる證據を求めんと欲せば、共和政治に敗れたる政黨をして權力勢威を回復する能はざらしむる爲め、現政府が今も尙非常の警戒豫防を加ふる事實に着目せば思半に過ぎん、此豫防は實に至れり盡せる者にして、網罟の如き複雑なる行政機關の中樞より廉隅に至るまで一貫す、故に各州の長官及び副長官のみならず、自治町村の學校教師、收稅吏の如き無數の小官吏より郵便局長の類に至るまで盡く皆政府當局者と同様の政見を有する者なるを要す、又四時絶えず是等の官吏の舉措動靜を注視して一々之を政府に報告する者あり、苟くも復古主義に同感なりてふ嫌疑を蒙る者あらば、區々瑣末の瑕疵を口實とし、その昇級の途を杜塞し、或は全く杜塞せすとも甚しく之を妨害す、過去長年の實狀に照らすに、凡そ官吏たるもの若し結婚葬式等の如き特別の理由あるにあらずして屢、教會に入入することを發見せられれば、忽ち必ず政府の嫌疑を受け、如何なる辨疏も採用せられざりき、復古黨帝政黨の如き何れも皆僧侶と親

密の關係を有し、帝王政治と教會とは同心異體の如くなりければなり、此故に官途に衣食する者は教會を往訪する結果昇級者の目錄より姓名を削除せられんことを恐れ、疑心悪意を挟む監督者の爲め、尊僧主義の徴として政府に密告せらるゝが如き行爲は一切之を慎む、されば彼等は其實教會の歸依者なるも、昇級の途絶え又は食祿を奪はれて妻子に累を及ばさんことを憚り、故らに自由思想家(天啓又は教會に依らず、自由の考究をなす者にして、要するに不信者なり)の類に數へられて自ら甘んずるもの多し、此種の官吏の妻子は概して教會に詣する者なり、然れども其教會に赴くや偏に謹慎の態度を守り、可及的公然ならざらんことを務む、官吏社會には宗教の儀式を許し行はしむれども、たゞ婦人小兒の嬉戯として之を默許するのみ、非教會主義の立法者中には止むを得ず妻子に之を行ふことを許すもの多し、これ佛國の婦人は一般宗教上の傳説慣習を重んじ、而して夫はまた妻を重んずべき理由あればなり、況や妻は屢、多額の金錢を携へて嫁するに於てをや、裁判官及び軍隊の士官に至りても亦決して官廳の壓迫を免れ、思想の自由を行使すること能はず、既に高位に登れる判事及び武官は潰職の罪

あるにあらざれば瑣細の口實を以て免黜せられず。この諸輩は大に自由を享受することを得。然れども年なほ少壯にして青雲の志ある者は世の風潮に従ふか將た又之に従ふ體を裝はざるべからず。若し爾かせずんば頓て政府の復仇を受け、始めて生涯の方針を誤りし事を悟らん。何となれば一旦拔擢の數に漏れて昇級の機を失ふ時は久しからずして不合格者の中に數へられるべし。是に至り彼等は漸々憂鬱懊惱の境遇に陥るの外なし。嗟呼不幸なる哉。この制度の基礎は一般人民の心肝に銘刻せる政治上の慣習及び行政上の古例にして、此慣習や此古例や織緯を具へ根柢を具へ、如何なる利器も以て截斷するを得ざる盤根錯節なり。若し復古論者が立法院を組織して現今の立法院に代ることあらば同一の制度の繼續すること尙今の如くなるべく、たゞ今日復古主義を窘迫する諸輩及び之に随使せらるゝ徒が明日窘迫を受くるの差あるのみ。若し夫れ偏せず黨せず蕩々たる中道を踐む精神にあらば、政治上の怨恨と偏執とを標準とする陋見よりも勢力却つて強固なるべく、自由と正義を實現する最良の望は偏に這箇の精神を涵養するに在らん。

朋黨と團體 佛國人が數多の朋黨と團體とに分裂し、堅く各自の陣地を守つて相敵抗するは、吾人其諸地方に於て最も多く之を認む。而して吾人の怪訝に堪へざる一事あり。此敵抗軋轢が根本的に政治に關係するに拘らず、一國の輿論を紛起せしむべしと思はるゝ大問題に逢ふも諸團體極めて冷淡にして、僅に織々たる微波を表面に起すに過ぎる是なり。凡そ地方の都邑に居住する庶民は縱令未だ會つて國會の討論筆記を讀みしことなきも、尙且つ政治上の理由を以て互に疾視反目すること多し。而して國民全般の利害に關する重要な問題が一般人民に何等の利害心をも起さしめざること少からざれども、若し一地方の政治に關する問題の湧起するに逢はゞ忽ち苛烈なる黨派心を激發するを普通とす。その故如何となれば、此種の問題は平生面容に近接し得べき知名の士の利害に關係すればなり。之を例するに地方議會の議員を選挙するに當り一小郡邑が活氣を起して白熾熱に昇ることあるも、我選挙區より國會議員を選出する場合には甚しき熱心を示さざるが如し。而して政見の相同じからざるが爲めに團體の旗色を異にする諸人は互に憎疾すること犬猿も管ならず。萬事に關して可及的相關

せざらんことを務む。處々に散在する珈琲店は之に出入する客の黨別に由つてその旗幟自から政治の色彩を帯び、甲店は某黨の會所、乙店は某派の會所と評判せらる。蓋し又許多の爭論を防止する一法なり。假に一婦人ありとし、其家族は王政又は保守的の主義を固執し、且つ實に之を固執する理由ありとせよ。而して此婦人は縦令靴又は手袋を要するも、若し進歩せる共和黨員と稱せらるゝ、自市の一商人に之を求むるの外なき時は、寧ろ靴を穿たず手を曝す不快を忍んですら此商人より一物をも買はざらんを欲す。諸の大都市に於ては卑劣を極むる政治上の怨恨及び朋黨を認むること小都邑より遙に少し。然れども黨派の敵愾心は諸他の處と同様に行はれ、行政機關の綱罟は社會の全體に展張せられ、國務卿及び其屬僚は綱罟の大繩索を操縦し、共和政體を危からしむる諸の勢力を根絶せしむるに務む。以前は羊群中より山羊の嫌疑ある者を沙汰する制、唯内務卿の管轄區域内に止まりしも、曾てアンドレ將軍 (General Audé) が陸軍卿たりし時、將校の素行に關する秘密の報告に就き疑獄起りしより、後は嫌疑者を識別淘汰する密計の行はるゝこと、獨り内務卿の管轄内に限り、と斷言し難きに至れり。

社交的の資質 佛國に於て政治は人民の生活及び其品性を枯死せしむる害物なり。何となれば人を卑陋下劣に導き、瑣々たる隱謀、黨派の争鬪、壓制的なる獨裁政治にのみ狂奔せしむる傾向あればなり。同國の政治は單に國民の統一を永遠に阻碍するのみならず、既に説示せし如く全國の人民を分裂せしめて社交の實を擧ぐることも能はざらしめ、唯同一の巢窟に屬し若くは強ひて之に誘致せられたる狐狸輩の間に和親輯睦の片影を認むるのみ、而して之を他の一面より窺ふに、社交的の資質柔軟婉轉にして臨機に諸の事情に適合し、舉措の優雅と言動の媚態を以て人生を快適ならしむるに適するは佛國人の天稟にして、何れの國民も其右に出づる者なし。故に佛國人中に住居する外國人は相憎疾する諸人の均しく歡樂するを見るや、斯かる柔順快適なる國民が屢、狂熱に浮かされて同胞人に迫害を加へ、或は其毒惡の人物なりて、密告を受けしと同様の舉動に出づるを怪むなり。夫れ人に懸篤にして客を款待するに好意を以てする美風は、吾人が佛國の各處に見る所にして、政見、門流、信教の同一なると否とに關せず、各人の格に具有する資質なり。此美質は佛國人が先天に得たる性にして、矯飾して生ぜし

者にあらず。されど事若し政治に涉り或は天主教徒或は新教徒或は自由思想家と議論相容れざることあらば、飽くまで對敵を憎怨して毫も其取るべき點を認むること能はず。これ又著しくその性格に現るゝ所なり。宜なり天主教徒が共濟會員(次に見ゆ)の罪惡をのみ認めて一の美點をも見る能はず、又共濟會員は天主教徒の頑冥不靈無知蒙昧をのみ認めて一の好處を見る能はざること。

佛國の共濟會 佛國の共濟會に關して聊か茲に説明を加ふる必要あるが如し。英國に於ける共濟會(Freemasonry)は相親睦し相救濟するを目的とする非政治的の組織にして、主として保守的の階級より會員を取る故、自然保守主義の傾向を有す。されど佛國の共濟會は之と異り、武人的に且つ政治的の組織にして非宗教的の目的を有し、毫も此目的に背戻するを許さず。佛國共濟會てふ結社の理想は全く宗教の臭味を帯びざる國家を組織するに在りて、其國家は人の天性に固有なる諸德のみを權威と許し名譽と認め、門閥財力信教の如きは聊かも之を承認せず。てふ事を原則とす。而して古來の傳説慣例を尊重する感情未だ國民の心に消滅せず。從て此理想を實現するは困難なれど、政府の干渉に由り此理想は一般

の感情の許す限り事實と相接近し來れり。久しく「尊僧主義」と血戰して拔群の功名を樹てたる立法者中、曾つて此會に屬せし者又は現今之に屬する者少からず。曾て陸軍に奉職する士官の政見及び其宗教に關する素行を探知し、之を陸軍卿に密報して黜陟の參考たらしむる爲め、極めて精微なる秘密探偵機關を佛國共濟會の本部に組織せしが、突然世人は之を悟れり。これ巴里の本部に於ける一事務員の粗忽に出でしか、又は規約に背きて之を漏洩せしに由る。此事の露顯してより甚しき排斥運動起り、同會の勢威は多少減殺せられき。

政府の庇應 佛國の官邊に奉職する百般の官吏はその數年々増加して今は迥に必要以上に昇れり。これ佛國の立法者が熟知する所なり。而して諸の政治上の變遷に由りて類に冗員を沙汰すと雖、屬僚の數たゞ増すを知つて減するを知らず。下院若くは上院の議員は其政友中に我子又は兄弟の子を官途に就かしむる爲め新に官を設けんとするもの多き故、之と争ふに多大の時間を費すと謂ふも可なり。俸給は一般に瑣小なり。然れども志願者は之が爲めに阻むことなし。食俸縱令薄きも政府の庇應を受けなば其地位安固にして、且つ多年勤積の後恩給に

浴するの利あり、故に之に隨喜して無上に奉職を重んずる風あり、斯く五斗米に腰を屈する結果、才能あり創思ありて順境に在らば非常に發展すべき技倆ある人物中には、その父母が自己をして官海の安全なる航路に上らしめんと熱望せし昔日を回想し、非常に生涯の計を誤りしを悲歎せし者多し、而して此微祿の地に蠢動する小吏は收支を相償はしむる爲め奮闘力戦し、到底望もなき昇級を待ちながら血氣少壯の歲月を送過すべき慙然の運命を荷ふ。

課税 佛國に於て庶民は收税吏の其門に臨むを望んで狼狽窮困する者なし、收税吏は尊嚴自持する官吏にして、之を「ペルセプツール」(Percepteur)と稱し、概ね甚だ暗黒汚穢なる官署に席を占め、其椅子の上に圓形の革齒を敷く、又其中には之を敷かざる者もあり、此革齒を用ふるより收税官及び其同僚は一般に「革の圓」(rouleau de cuir)てふ異名を下されしが、思ふに不敬の名稱ならずとせず、彼は自ら戸々を歴訪して税金を集むるにあらず、又代理を派して之を集むるにもあらず、税金をして我前に集來らしむ、家屋又は一室の所住者に課する普通の税即ち「タクスマピリエール」(taxe mobilière)は家屋の借料を基礎として計算せられ、衆民の憤然激怒

しながら熟知する所なり、收税官は紙上に徵税額を認め、郵便に由り之を人民に通知し、以て税金を納附せしむ、紙は種々其色を異にし、色の異なるに従ふて納税督促の緩急を異にす、紙に三種の別あり、甲色の紙は禮意を表する者にして、謙して納税あらんことを求め、乙色は遲きに堪へざる意を表する者にして、速に納附すべきことを促し、丙色は義務の怠慢を責むるものにして、火急に上納すべしと威喝す、庶民は多く侵犯的なる第三色を見るまで安閑然として納税を怠る、由來佛國人は概ね此種の挑發者に對して誠意熱心に紛争を起す、されど紛争に係累せず平和に生活するに習へる温厚家は誅求の勢ひ悪魔の如き財務官と不快の衝突をなさざらん、と務め、侵犯的色紙の至るに先だち税金を納附す、借て佛國政府の賦課する直接税は如上の一種に止まると思ふべからず、三種四種を擧ぐるもなほ足ざるなり、住宅税の外には土地税あり、戸に課する税あり、窓に課する者あり、(此二種は地主より納むるを通常とす)、又馬車税、荷車税、自轉車税、犬税、其他なほ種々あり、又各個の自治團體は道路を保存する爲め其人民に課税す、之を名けて「プレスタシオン」(prestation)といふ、即ち供給の義にして、此税を納むるを欲せざる

者は、納金の代價として三日間邑道修理の徭役に従事し、場合に應じて或は石を割り或は溝渠を掃除す(此徭役を *prestation en nature* と名く)而して爰に奇怪と思はるゝは、戸外に於ける此徭役が税金を納むるを苦痛とする者よりも、寧ろ之を納めんと欲する者に利益を與ふる事なり。何となれば財に富むものは運動缺乏するを以て三日間勞役に服するは醫學の一端を窺ひ、又はヴィシー、コートレーの如き温泉の名地に保養するよりも健康に益あればなり。證書の登録に關する諸般の税金は登記局(*Bureau de l'Enregistrement*)と稱する官衙に於て納めざるべからず。現今の立法部は所得税の原則を設くるに従事す。この原則若し具體的に法律とならば、直接税の賦課法は大に變易せらるゝならん。佛國民が方今最も重大なる負擔とする所は間接税の賦課にして、唯奢侈品の價に影響するのみならず、殆ど各種の日用必需品にも影響す。この苦痛をして更に甚しからしむるものは入市品税にして、諸の郡邑が他地より入り來る一切の産物及び商品に課する者なり。殊に又間接課税の負擔を大にして人民の苦痛を甚しからしむる者は關稅及び國產税とす。

課税が生計費に及ぼす結果 政府は輸入品に重大なる關稅を課して内國產物を保護すと雖、保護税が各種食物の價に及ぼす影響は英國に於てよりも佛國に於て一層甚し。而して勞働に従事して日々奮闘する中等階級が能くこの壓力に堪へ、外面より見ればその戸内に於ける苦楚艱難の狀を認め難しと雖、これ佛國人が節儉の習慣を父祖より繼承せると、殊に又齊家の道に長せる良妻の技倆は僅少の資を以て長く生計を維持せしめ、加ふるに心筋に無用の費を恐るゝに由るなり。僻遠なる邊邑寒村に於ては肉類、家禽、卵子、牛酪の價は英國の村落に於けるより廉なれども、人煙稍稠密なる城市に至らばこの類の食物高價にして、英國の郡邑に於ける生計費に比較して毫も利する所あるを見ず。同國に於ける麵麩は之を英國に求むるよりも概して高價なり。然れども未だ倉卒にその差異を明言し難し。物價貴賤の對稱最も著しく現るゝは茶、砂糖、珈琲の如き雜貨なり。砂糖(佛國に於て費消せらるゝ砂糖は殆ど全く内國產の甜菜より之を製す)の課税率減少して以來、小賣の價格下落して重量一磅に付凡そ三片半となり、大に下民の苦痛を減じたり。されど廣く一般庶民の飲料として用ふる珈琲は價甚だ貴く、已

に炒りたるものは一磅につき一志七片乃至三片を要す。茶は現今佛國に於て急速に販路を擴張しつゝあり。然れども最も廉價なる品にても一磅毎に三志以上を拂ふにあらずんば之を得べからず。然れども茶の價の不廉なるは生計狀能裕かなりと思考せらるゝ諸階級に影響するのみ。雜貨店に於て求めざるべからざる許多の必須品に關しては之と大に趣を異にし、富者のみならず貧者に至るまで甚しき影響を被る。夫れ萬民の口を養ふ商人として雜貨商は實に麴麩商に亞ぐものなり。庶民が雜貨店に消費する金錢は諸他の商店に費すものよりも遙に多し。諸種の雜貨を概論するに佛國に於ける價、英國に於けるよりも二割高價なりと謂ふも誣言にあらず。衣服も亦同様にして、貨幣の價格より論すれば英國より多費なること甚し。

行政機關 英國人の眼を以て見れば佛國人は政府より過當の管理を受くる國民なるが如し。此感想は佛國の行政機關に無數複雑なる車輪を含むより起れり。佛國人はなほ搖籃の中に在る時より鬼籍に入る刹那まで終生政府に支配せられ、死後に至りても暫時なほ其管轄を免れず。初めて生れたる嬰兒は母の胎内を

出で、二十四時間を経過せざる内に現世界に到着したる由を區役所 (Mairie) に報告して登録を受けざるべからず。この初來の時より北邸の煙となるまでは、焔々たる百眼を張て警戒に怠らざる行政廳煩はしく干涉して暫らくも止まず。車輪の内部に更に無數の車輪を裝置して構成せられたる奇怪の政府は此煩瑣なる干涉を規矩とし、萬事を此理想に適合せしむる爲め終年營々たり。一八七〇年の戰禍以來苟くも國民の一員たる男子はなほ襁褓の中に在ると否とを別たす。行政官廳に重要視せらるゝに至れり。凡て嬰兒が男性を享けて生れ來るや政府は直ちに之を未熟の果實として人名簿に録載し、其熟するを待ち摘んで之を徵兵に供せんと期待す。女性も亦政府の帳簿に登録せらるゝ光榮を有す。然れども著名なる女丈夫オンベル夫人 (Mine Humbert) の如く、社會民衆を煽動撻拌する才力發展して男子と見做すべき價値あるにあらずんば、官府は女子の生涯を以て忽諾に附すべき者と思惟す。時としては出生當時の登録に男女の性に關する誤を生ずることなしとせず。若し此失誤起ることあらば凡そ二十年の後徵兵募集の時頗る不快なる紛擾を惹起す。官吏社會は自己のなす所に秋毫の錯誤なしと

確認す。故に男女性に關する争起るや乃ち曰く、女裝男子と男裝男子とを論せず。少年の男兒は盡く皆兵なりと。凡そ人民が異議を唱へて官邊の命を拒むや、行政官廳の全部は煩はしく制規の形式を提げ來りて一切の陳説を壓滅するを最も緊要の職責とす。而して此少年は縱令自己の男子にあらざること最も嚴肅に宣誓するを辭せざるも、官署は限りなく形式の法文を提示し、以て遂に頑固なる抗議を破り盡さんことを期すべし。

今、説述せし所は官邊の全體に行はるゝ弊にあらず。古來官海の慣例は一般官吏の心狀を斯くの如くならしめしにあらず。讀者をして這般の誤解なからしむる爲め吾人は更に數言を添へん。現今佛國の政府は近時に至るまで女子に拒絶したる諸種の利益、諸種の機會、諸般の榮譽を婦人に提供す。例へば、レジオンドノール(Légion d'Honneur) 一八〇二年ナポレオン・ボナパルトが執政官の時設けし勳位にして、官の文武を問はず國家に大功ありし者に榮光を加ふる目的に出づを授くるを許し、醫師又は法律家たる事を得しむるが如き是なり。又方今郵便局に於て婦人を雇用すること全く合衆國に於けると同様なり。然れども地方會議の評議

員若くは國會の議員を推選するに選舉權を女性にも附與せんとする徵候は少しも認められず。唯極めて少數の婦人が國會議員の選舉權を得んとする野心を示すのみ。此理由より見れば女子に選舉權を與へんとする重大の運動は現在の佛國に於て不可能なるに似たり。

佛國の公民に關しては官邊に最も注意する所は公民たる資格にして、名譽の潔白なるは公民たる者の最大要點なり。公民若し何等かの汚行に由り裁判所にて有罪の宣告を受け、或は單に破産して其義務を果さざる時は、則ち公民たる權利の幾分を褫奪せらる。此に至つて彼は終身汚點を有する人となり、潔白なる名譽の證明書を示すこと能はず。誰人にも職を求めんと欲する者は必ず官衙の身分證明書を示すことゝ定めざるべからず。旅行者もまた旅行中何時この證左の提出を求めらるゝやも知れず。警察及び憲兵隊(軍人より成る者にして地方警察の職務を行ふ者)に屬する各員は人民に向つて平生此證左の提出を促すに慣れ、「パビエ」(Papiers)身分證明書の義てふ語は強く其胸臆に印して抹殺し難し。實に佛國に於ては制規の形式を尊崇する風あると同時に、又無限に「パビエ」を崇拜する

風あり。さればこそ政府は行政機關の諸部分に於て必要以上に多數の官吏を置くを得るなり。

人若し佛國の郵便局に入つて爲替を送ることあらば、則ち同國の政府が如何ばかり敏捷に公衆の事務を處理するやを略解し得べし。若し又自己の外にも爲替發送を目的とする五三の人來り待つことあらば、愈益、その神速なるを悟り得べし。事務所には恐らく一人の少女ありて目忙はしく手忙はしく鞅鞅として事務に當る。公衆の之に求むる所過多にして切迫なる故、この女子が人に接するに粗略にして欣然たる能はざるは亦止むを得ざるなり。而して眼睛踊るが如く、組織るが如くにして一切の小帳簿に記入す。この状を目撃する者は佛國官衙の組織完美なるを感嘆しながら局を出で去るべし。この「小帳簿」こそ永遠に佛國を累はすものなり。佛國人固より組織に巧にして、世人は久しく佛人に組織の天才あることを許せり。惜むべきはその組織繁多緻密に過ぐるの一事にして、既に確實なることを愈益、確實ならしむる爲め必要の限度を超えて車輪の數と勞力の量を倍加す。英國にては之を名けて時間と金錢との浪費といふ。然れども英國人は

自ら組織の大才を有すとは稱せず。

躁急の埋葬 佛國行政機關の組織は常に快敏神速を尊ぶ中にも、殊に必要以外に敏捷なる一事あり。人の死亡せる證明を受くる時は急に驅て之を地下に迫促す。今日絶命する人あらば官廳は明後日之を埋葬せんことを庶幾す。若し更に此期日を猶豫せんと欲せば、其理由を具して延期を願はざるべからず。而して之を願ふには煩に堪へざる形式に據るを要す。故に埋葬の遷延を求むるもの至つて少し。斯くて悲痛すべき慘事發見せられて民衆が不安の念を起すは絶えず聞見する所なり。然れども久しからずして此事變の印象は消滅して人復た之を非難せず。政府は舊の如く此慣例を持續して曰く、少數者に公平なること能はざるも多數者の爲めには利益なりと。此戰慄すべき事に關し近來頗る傷心すべき統計公にせられたり。然れども此統計は主として墓穴を掘鑿する土工の語りし所を基礎とせしなるべく、從て之に十分の信を置かざるを可とす。但し可否は姑らく措き、之を信せざるは心を慰むるの一助ともなるべし。

葬儀の風俗 今爰に佛國の葬儀に關して一言するは失當にあらざるべし。葬儀

の風俗に就て佛國人と英國人は著しく感想を異にす。此差違は尠も宗教問題より起るにあらず。英國人は死者を出す時心中に抱ける悲哀の情を自己の家族及び最も親密の朋友以外に知らしめんと欲せず。これ其天性の然らしむる所なり。佛人は大に之と反對にして、縦令親善ならざるも相識の關係だにあらば其人の同情を受けて以て自ら慰藉す。深く考ふるにこの感情と混合して相離すべからざる一種の信あり。彼等は信すらく、儀式益々尊重莊嚴にして送葬に隨伴する人数益々多きに從ひ死者に光榮を與ふること愈々大なりと。斯くの如き奇怪なる信念あるを以て、凡そ同國に死者ある時はたゞ知者の朋友のみならず凡ゆる相識の人にまで誘引狀 (Lettres de faire part) を發送して葬式の參列を望むを例習とす。且つ又この誘引狀を送ること一は慰勸の禮意を示す行爲とも思考せらる。誘引狀には死者の近親の名を列記するのみならず、その年長の子より孩提の童の名をも掲載し、最も疏遠なる親戚の姓名をも併せ記す。而して誘引狀に接する者は之を應諾するを普通とし、屢々高聲を抛つて弔問送葬す。佛人の性固より同情を表するに敏なれども、死者の通報を受くる時の如く敏なる場合なし。之に加ふるに此風

俗は又佛國人が家族を愛するの情深きことを證す。故を以て送葬の儀式に關し斯く虚禮を重んじて恣に私心の哀情を訴ふるを見る英國人は極めて嫌忌の心を起すべきも、宜しく此風を輕視して品性淺薄の結果と思惟すべからず。

佛人及び其貧民 佛國に於ては貧民常に幸福の境遇に在る者の庇護を受く。佛人は實に絶えず心を刺戟せられて慈善の情を起すなり。貧民に注意して之を保護する救貧局 (Boards of Guardians) は此國に存せず。又貧民に街路を徘徊せざらしむる爲め之を收容する工場もあらず。勿論慈善を目的とする公立館中には少數の救貧院 (Hospice) なきにあらず。巴里の附近に在るピセートル及びナンテールの慈惠院の如し、されど斯かる數滴の雨露は争でか沙漠の渴を濡ほすに足らんや。勞働するに能はず又は勞働するを欲せず、而も赤貧洗ふが如き者は幾百萬を以て算すれど、個人の慈悲若くは牢獄の外之を救ふ一個の機關なし。盲目なる者、半身麻痺せる者、腕を失ふ者、脚を失ふ者、此種の不具者は教會の門を敲き或は公衆會合の場に立ちて喜捨を仰ぐ、而して公衆の中に金錢衣食の施捨を乞ふは國法の禁する所にして、之を犯さば爲めに處罰を受けざるべからず。然れども最小の

經費を以て貧民問題を解決する便法は、放任して個人の慈善に頼らしむるに在るは官府の已に承認する所となれり。牢獄の設備は實に不完全を極むれども、政府は費途多端にして之を改善するに暇なし。祈寒腐を劈かんとする永夜に空腹を充たし霜露を避けん爲め、狗盜を學び窓戸を破る浮浪の徒は處置に困難なる一種の滑稽漢と思考せらる。而して之を囹圄に監禁するや衆徒雜聚して衣食を共にす。これ輕罪の囚徒を拘禁する佛國監獄の常則にして、其待遇は英國救貧院に於けると略、相類似し、或は之より一層快適なるべし。されど誠實にして法を犯すを肯んせざる乞丐は政府の設立せる此旅館が宿泊料を要せざることを知つて之に收容せられんと冀ふも、強ひて罪を犯すにあらずんば捕縛せられて旅館の客たるを得ず。故に之が客たる權利を主張せんと欲せば、故らに特種の罪迹に由りて社會の害物とならざるべからず。

佛國人の名譽の爲め更に一言せん。彼等は私力を以て慈悲を施す情に富んで日之を實地に行ふ。若し厄窮せる可憐の民が眼前に来て不幸を訴ふる時は、彼等忽ち惻隱の心を動かす。門に立て食を乞ふの外何等の非行をもなさざる乞丐を

逐ふは全國一般の民庶が大に非難する所なり。又貧民救助の爲め税金を徴收するは一般人民の非常に憤怒する所なるべし。彼等は決して斯く徴收したる金が最も窮困せる貧人の救済に充てられんとは信せざるべく、疑惑の眼を以て政府の機關を見、夥しく其車輪に油さす方便なるべしと思考せん。佛國人が限りなく行政廳の篤實を信せざるは諸他の事に於て見らるゝ所、豈に悲むべき事ならずや。官設の慈善機關としては政府の指揮により永久存続の制度組織せられ、名けて濟貧制度(Assistance Publique)といふ。此機關は處々に貧民病院を維持し、棄兒及び無賴の子弟を感化し、貧民の死者を埋葬し、其他政府の必ず責任を負ふべき義務ある諸、の慈善事業を行ふ。棄兒及び無賴少年は概ね之を農家に托し、田圃の勞働に従事せしめて之を生育す。此濟貧制度若し人民の手に委棄せられなば如何なるべきや。思ふに多く益する所もなかるべし。此故に政府は議會の諾否に拘らず豫算案に規定せる額を超過して多額の金を投ず、之に充つる財源は大小一切の劇場(政府の補助金を受くる者も否らざる者も)及び其他各種の娛樂場にして、其收入總額の百分の九に相當する重税を課す。ル・パリー・ミュチュエル(La pari-mutuel)相互

の賭金てふ義と名くる法定の賭金制度あり、競馬場に於て金を賭することを許す者にして、一回の輸贏に金錢の授受ある毎に其幾分を納めしめ、之を貧民救済の用に供す。故に競馬の賭金は害悪を流す弊風なれども、一方に於て慈善の目的を助くるに利用せらる。

佛國に於て宗教は從來常に慈善事業を推進する主力となれり。幾世幾代の間絶えず勢力を逞うして人民に個人的の慈善を施す慣習を作りし者は宗教に外ならず。而して方今宗教上の教理を束ねて一切之を放棄する人の中には尙私恩を以て慈善を厄窮の民に施すもの多し。知らず此諸人は自己の行ふ所が祖先傳來の習慣にして此習慣は宗教が父祖累世の心情に漸次堆積せし滓渣なることを悟るや否や、平素心力を傾けて偏に實際的の慈善に盡す宗教的の團體例へば、*「フュード・サン・ジャン・サン・ド・ポール」* (*Les Filles de Saint Vincent de Paul*) 一個の宗教的婦人會にして、通俗には之を *Sœurs de Charité* 即ち慈善の姉妹と呼ぶの如き、或は「貧民の小姉妹」てふ會の如き、何れも皆過去の時に於て人間の艱難不幸を救ふ爲め偉大の勳業を現したるが、今はその規模縮小せりと雖も、昔日の如く救済事

業を繼續し、政府も狹隘なる限度以内に之を寛容す。近年共和政府は諸の法律を連發して宗教團體を壓碎するに勉め、其主眼の目的は往時教會が民政に反對せしを回顧して之に報復するに在り。政府の此方策は諸の重大なる結果を生ぜり。貧民の艱難増加し來りたるも亦その餘波なり。何となれば饑饉に號哭する窮民は無慈悲なる惡運の犠牲となりし者、若くは自己の過誤、自己の瑕瑾、自己の害悪に犠牲となりし者にして、仁人君子の温かなる恩情に頼るにあらずんば露命を繋ぐ一縷の望さへなき者、然るに慈善主義の宗教團體壓滅せられてより此輩は恰も赤子の慈母を失へるが如くなればなり。凡そ一切の教會に於ては時期を定めて貧民救助の爲め義捐金を集め、斯くして得たる金錢の施與は法教區長 (*Chanoine*) の裁断に一任す。而して全國到る所の郡村又は都邑には概ね俗人の組織せる機關あり、之を「恵恤院」(*Bureau de bienfaisance*) と稱して其郡村又は都邑の長の監督に屬し、該地方に不幸災害の起る時貧民を救済するを目的とす。巴里市には各區に一個の恵恤院あり。

慈善的の典物所、佛國に於ける抵當制度は一般に濟貧制度の一部に屬す。直接

に地方官憲の管轄を受くる時もまた然り、これ他國人の奇怪とする所なり、該國には個人の營む典物舖なし、一個人若し英國流に従ふて之を營まば、高利貸として罰を受くべし、同國の典物所は「モンド・ピエテ」(Mont de Piété) 敬神の山てふ義にして、山は資金又は銀行の意なりと名け、政府の制裁の下に抵當品を取て金を貸す、其原理より見れば慈善的の典物舖にして、第十五世紀中「モンチ・ディ・ピエテ」(Monti di Pietate) といふ名稱を以て伊太利の諸所に起りたる慈善銀行の後身なり、凡そ重要の都邑には皆一個のモンド・ピエテありて、抵當品を取つて金銭を借す、之に要する資本は借入金及び寄贈金を以て之に充て、時ありて政府の補助金に頼ることあり、抵當物に課する利子の率は全國中一樣なること能はず、巴里にては百分の八に近けれども、ルーアンは百分の九より多く、アンゼルの於ては元金百圓につき幾に一回二十五錢の割合なり、アンゼルの如く利子低廉なる者は慈善金に依頼して營業の經費を支辨すること明かなり、此制度の原則を以てすれば、抵當品に課する利子の總額は借入金に對する利子及び諸經費を支辨するに十分なる金額を超過することを得ず、若し物品の評定價格を節して幾分の餘地を存する

おらば、貧民は此制に由り恩惠を受くること必せり、凡そ便利なる抵當機關には、講の弊害伴生することを免れざれども、獨りこの制度は此弊害を最小ならしめ、英國の方法に優ること莫大なり、英國流の如くんば典物舖の營業は人民の困難を奇貨として不當の利を貪る者に外ならず、然れども佛國の方法は全く弊害を脱せりといふにはあらず、何となればモンド・ピエテは一般に抵當品の評定價格の三分の二以上に押當する金を貸すべからず、てよ事を規耶とし、各典物所に從屬する評價委員會(Commissaires-Prisiers)若し評定價格を誤らば其結果を受くべき責任あり、故に委員が物品を鑑定するや、估價甚だ低きを通常とす、之が爲め久しき以前より一種の狹隘漢外部に立て之を傍觀し、抵當票を買ふ事を專業とせり、此狹隘は抵當票を取て所有者に金を與へ、一定の期限内には再び之を返附せんことを經ず、然れども此業が其期間に要求する利率は固よりモンド・ピエテの定率と大差あり、但し事實を窺ふに此種之の奸商に依頼する貧民が物品を贖回する場合甚だ多からず、

佛國の俚語に於て典物舖を呼ぶに最も廣く用ひらるゝは「義伯母」(Tante tantée)

ふ語なり。之に反し英國には之を「我伯父」(my uncle)といふ。英吉利海峽の兩側に住する二民の談話が何故この一點に於て斯く親密の關係を有するやは閑暇にして無聊に苦む人に適する好箇の研究資料なり。又海峽の兩岸には之と相似て表裏全く相反する俚語あり。別を告げずして竊に去ることを英國にて「佛人に告別す」(saying French leave)と云ひ、佛國には「英人に離別す」(Ber a l'Anglais)と云ふの例なり。世の閑人願くば此種の語句にも研究の區域を擴充せよ。

飲酒の節制 佛國には砂糖を加へたる水の外食間に何物をも飲むべからずてふ優美なる格言古來より傳へらる。然れども方今は徒らに之を尊重することを知らざるも之を守るもの少し。砂糖を奢侈物とせし昔日には砂糖水すら浪費の飲料と思考せられしが、今はこの飲料の使用全く廢して行はれず、唯陳腐の見解を襲踏する婦人の外この無害なる奢侈に耽る人を見ること極めて少し。近來は苟にも華奢風流の社會に出入する婦人又は此種の社會に入ることを熱望する婦人は晝食と晚餐との間に茶を喫するを慣習とす。これ亦英國の惡風に感染したる結果なり。男子も亦食間の閑暇なる時若くは作業中に休憩する時は、恰も英國人

の慣習の如く一種の飲料を以て其口を濕したゞ嗜好の異なる爲め飲料の種類多少異なるのみ。

率直に言へば佛國人は昔時の如く飲酒を節制せず儉素の風を守らざるなり。少數の地方に於ては近世の進歩發達に由り農民大に福利を得て生計の状態甚しく變化せしも、その他の地方に住する農夫は生活の様態毫も變化せず、縱令變化あるも頗る微小なり。然れども諸の都邑に住する勞働階級及び中等階級の下層は大に然らず。其嗜好及び必要は全く往日と趣を異にし、僅か數十年前には必須ならずとして排斥せし物又は特別の場合にのみ稀に用ひし物をも今は吃緊にして缺くべからずとす。その日々用ふる食物は昔時の如く質素ならず、又低廉ならず。今日尙百歳に満たざる故老すら少年の時を追憶して澆漓の俗の奢侈なるを歎す。アルコール性の飲料もまた大に用ひられて恐るべき惡結果を公衆の健康に及ぼし、廟堂の上に國家の權衡を持し、絶えず豫算案の問題に苦慮する大官は歳入の源泉として之を喜ぶも、その害の明かなるは之を掌に指すが如し。國產局が一切のアルコールに課する税金は近年大に増加せりと雖、之が爲めに

消費増加の傾向を防護し得たる痕跡を認めざるのみならず、益、低廉にして益、有害なる酒精の需要を奨励する動機となれり。これ固より免るべからざる結果のみ、佛國に於ては如何なる原料よりアルコールを製造するも法定の税金を納むる以上は決して之を販賣するを禁せず、而して其税額は現今多數の下民が消費する酒精の原價よりも多し、下民の今飲料とする酒精は主として甜菜の根より之を造る。葡萄酒を蒸餾して造れるブランデー又は酒精もあれど、其價貴きに過ぎて下民日用の料とならず、林檎酒より製したる酒精もまた然り。林檎酒は一に又カルヴンドス(Calvados)と名く、カルヴンドス州に於て廉價に之を蒸餾すればなり。されど廉價に造り得らるゝは林檎の夥しき時のみ、近時の報告に據れば佛國に於て年々純粹のアルコールを消費する量は一人に付凡そ一リトル四分の一なり(一リトルは凡そ五合五勺に當る)。

酒店免許の制 目下國會に一個の議案出づ、其趣意はアルコール性の飲料を販賣する店舗即ちデビー(Débit)の數を制限し、地方自治體若くは市區に住する人民の數に比例せしむべしといふに在り。現今行はるゝ状態の如くんば、誰人にても

隨時に葡萄酒、酒精其他諸種のアルコール性飲料を隔ぐ免許を受け得べく、上納すべき營業税は地方に應じ一様ならず、デビーといひ珈琲店といふも二者名は異なるも其實同一なり。到る處の城市都邑に此種の店舗漸々増加するを見れば、得る所の利益が放出せし費用を償はざると明けし、此免許は所謂パタント(Patent)なる者と別なり。パタントは各商人が營業の權利を得る爲め直接税として納むる者、即ち一種の營業税なり。此税の額も亦地方と料定の販賣總額とに従ふて各、差異あり。公務上には葡萄酒、麥酒、林檎酒の三者を名けて「衛生飲料」と稱す。數年前此種の酒の販賣を奨励する爲め一個の法律出で、其入市税(都市に入る物品に課する税)を免除し又は之を減少せり(巴里市に入る葡萄酒は方今全く入市税を免る)。政府が此法律を設けし主要の目的は葡萄酒醸造者を助くるに在りしが、斯くして臆想すらく、葡萄酒の價を低廉ならしめば酒精及び酒精を基礎とする諸種の人造飲料を販賣する趨勢を減殺すべしと、然れども此期望は實現せざりき。然らば法律の方を以てデビーの數を減少せば佛國に於けるアルコール中毒を現今以上に増加せざらしむべきやは大に議論の分かるゝ所未だ、輕卒に明答し難

し。吾人は斯くの如き法律若し採用實施せらるれば營業を繼續する店舗を繁榮せしむる結果に終るべしと想像せざるを得ず。之を要するに毒毒の主原因は店舗の多少にあらず。實に「衛生飲料」と稱し難き有害の酒類を嚮がしむるに在り。茵陳酒及び諸他の分泄藥 佛國人が年々消費するアルコールは五十三萬二千五百ヘクトリトル(ヘクトリトルは凡そ五斗五升にして百リトルなり)と稱す。而して其中諸種の植物より造れる精を混じ「アペリチフ」(apéritif)分泄藥即ち分泌及び排泄を容易にする藥劑の義の名稱を附して販賣せらるゝ部分非常に多量なり。アペリチフには諸種あれども概ね茵陳酒(茵陳の精を混じたる酒精)なるか又は諸種の藥劑を調合して製せる苦味酒なり。近年佛國人の多數は毎日少くとも一回づゝアペリチフを飲む習慣を得、缺くべからざる必要の飲料なるが如く思惟す。此習慣の殊に甚しきは都邑に住する人民なり。彼等は正食の少前に之を飲まば消化を促す效ありとし、通例は珈琲店に入て之を求む。佛國に在りし人の親しく知れる如く、茵陳酒を飲む時刻 (neuro dabsinthe) には巴里の街巷に旁午する人民醉を帯びて活氣を呈す。此時刻は稍、遲速ありて一定せず。所によりては午後六

時と七時半との間なることあり。而して若しその時刻にのみアペリチフを用ひんには之が爲め決して大害を生ずることなかるべきも、近時は毎日幾回となく之を飲む風習行はれ、驚愕の叫聲屢、所々に起れり。醫學會院の如きは再三再四此種のアルコールを飲用する習慣を責め、政府に猛省を促して絶對的に其販賣を嚴禁すべしと忠告し、論じて曰く、之に混する諸種の植物精は直接の反應を神経系統に及ぼして之を攪亂し、神経に毒すること頗る甚しと。就中茵陳酒は神経を刺戟して人を狂亂せしむる力を有する故攻撃を受くること最も甚しく、現に之を常用として狂亂せし實例類々として現れき。之を飲んで酩酊する者は往々神氣激越して狂暴の舉動を敢てす。而して茵陳酒の飲用一旦習慣となる時は之を廢すること極めて難し。白耳義及び瑞西の二國は遠からざる股鑑に顧みて深く警戒を加へ、民衆の利益の爲め嚴勵を極むる法規を制定し、以て國境内に茵陳酒を製造し及び之を消費することを禁遏せり。歐洲諸國を見るに近來酒類に茵陳酒を飽充せしむる爲め非常の害を被りたるもの佛國の如く甚しきはなし。然るに今日に至りても尙優々然として國會の議決する日を待ちつゝあり。事誠に人

民全般の死活に關し、一日酒稼すれば一日の害あり。國會議員たる者迷に勇を鼓して毒酒の源泉を断たざるべからず。

遊戯と競技 各種の遊戯及び戶外の競技を嗜好する風は既往の二十年間大に佛國に勃興せり。然れども競馬が巴里人の愛好する嬉戲となりしは嘗に此二十年間のみにあらず佛國の競馬にブックメーカーの見はるゝに至りし事は或は佛國の爲めに幸福なりとして之を賀する者あり、或は不幸なりとして之を吊する者あり、何れにしても英國風心醉熱より生ぜし第一の結果に屬す。英國風心醉熱 (Anglomania) は第三共和國の建設に先だつ數十年間佛國に行はれ、賛否の論紛々然として起れり。大に競馬熱を促進せしめし主因は一八三三年中競馬を改良するを目的とする協會の設立せられし一事なり。今日ロンシャン (Longchamp) に於ける競馬及び巴里周圍の各處に行はるゝ競馬は皆該協會の庇護に賴る。本會の牙管は「競馬師俱樂部 (Jockey Club)」にして法律に由り廣大なる權力を附與せられ、其管轄範圍以内に行はるゝ競馬に關して規則を制定し、又一切の問題を解決す。蓋し競馬と賭金とは相離るべからずして競馬を盛ならしめんには賭金を許さざる

べからず。而して佛國人が此賭金法を嗜好して之を慣習とするに至りしは、英佛二國の相握手せる影響を受けしにあらずして、其起源は更に遠き以前に溯れり。其後巴里に於て競馬熱の弊害甚しきを極めしかば、近年之を制止する爲め特に法律を設けざるを得ざりき。是に於て競馬は一切政府の制裁を受くる事となれり。而してブックメーカーは海峽の對岸より數多の熱練家を佛國に招きしが、此事實より考ふれば彼等は此頃已に一攫萬金の暴利を占めしなるべし。されど一片の法律は大打撃を與へて之を粉碎せり。斯くて官憲は新に「ル・パリ・ミューチュエル」てふ制度を用ふるに至りしが、此制は絶體的に賭金を防止せざれども、能くブックメーカーの職業を危からしめて復た起つこと能はざらしめたり。

ロインタニス及びゴルフの如き戶外の遊戯は方今佛國人の廣く行ふ所にして其流行の狀を見れば、凡そ二十年前に於ける社會の慣習と相反すること實に微小にあらず。二十年の昔には斯くの如き嬉戲を目的とする俱樂部は殆ど夢にだも見ざる所なりしに、今は全く之に反し、社會民衆の集合する各處に之を見るを得べく、英佛の兩國人を以て組織せる者も甚だ多し。往日には少年男女の相交つ

て遊戯するは曾て目撃せざりし所にして、唯値に之をクローケー(Grotte)一種の毬戯に見るを得しのみ。且つ又男童及び大人が角力の技を試むこと往々流行し、吾人は進歩變遷の甚しきに驚かずんばあらず。闘球戯は佛人之を知れども未だ採用するに至らず。されど蹴鞠は已に當國に入れり。自轉車は早くより流行し、戶外運動の熱情を煽動するに與て大に效ありき。而して吾人は現今佛國人の少年子弟が其父母の如く逍遙散策し、又は珈琲店及び玉突場に因循して閑暇の時間を送るの陋に倣はず、一層強壯にして一層活潑なる遊戯に耽るを見る。但し以上の所説は中等階級に關する者にして、之に屬する諸種の人物概ね皆此氣運に向へり。然れども降りて勞働階級を見る時は、角力的の闘技及び遊戯はその多く嗜好する所にあらざるが如し、軍隊的の遊戯をなし、操練及び演習を模倣して快樂とするは全く同國人の心頭にも浮ぶ所にあらずと謂ふて可なり。蓋し英國も若し兵服を義務的としたらんに、亦斯くの如くなるに至るべし。

佛國人中時潮を遂ふて當世流行の娛樂を求めんとする種類の人物は絶えず増加して止む時なし。此類の輩は非常にゴルフの戯を嗜み、殊に之を練熟して巧妙

の手腕を證し、其師たる英米人をして出藍の才器を嫉ましめき。斯くて佛國はアルマン・マシー君(M. Armand Massy)を出し、世界のゴルフ場裡に鳴る秀才をして顔色なからしめたり。素と此戯は佛國の土産にあらず、英米兩國より來り住む者及び其觀光客は實に之を輸入せし率先者にして自ら樂む爲めポー、ピアリーツ、カシ、ディエツ等の諸地に之を起せり。然るに佛人は忽ち其一莖を盗んで之を自園に栽培せしかば、暫らくにして根を生じ幹を固くせしのみならず、其枝極益、四方に蔓らんとす。

佛國の土産と稱すべき戶外の遊戯はジュードボール、九柱戯、ジュード・ホーム等にして、農民又は勞働階級の外今は人の之を樂とする者稀なり。佛領に屬するバスクの地にはテニスの一類なるジュード・プロット(Ju de pelote)と稱する遊戯あり、一般住民が階級の差別なく行ふ所なり。バスクの中佛國の版圖に入る部分は其東南隅のみにして、南はピリニョズ山を界とし、海岸に沿ふて北方ピアリーツまで延長す。

自動車の操縦と其影響 自動車の操縦は佛國に於て、一種の遊戯と思惟せらる。而して上は豪富より下は中産の階級に至るまで廣く社會に流行し、今は各種の

遊戯中最高の位地を占むその國民一般の慣習及び生活狀態に及ばず影響は甚大にして而も十分衛生的なりと謂ふを得ず此流行熱に狂醉する幾百千人は之が爲め驚くべき經費を要し購買の際のみならず維持の爲めにも甚しき打撃を受く思ふにこの多費なる遊戯は國民的の性質を漸々變化しつゝある者の如し自動車の運轉盛に流行するに従ひ一般の人民が戸外の運動を嗜好すること年甚しく其結果として佛國人の心は萬事に關し次第に淺薄輕佻に流れつゝありその影響は之を諸般の美術に於て認め得べく文學に於ても見るを得べく日常の談話に於ても亦著しく現るこの外佛國に於ける自動車製造の職業並にこの新旅行器械の濫用により公衆の被る不便等は科學及び發明の章に於て已に説示せり。

佛國の遊獵家 佛國の遊獵家を戲弄したる古言あり曰く奇怪なる外套を穿ち小帽を戴き行脚を着け革袋を附せる銃を携へて出遊す而して毛皮を被り羽翼を有する動物にして苟くも人家に伺へる者にあらずんば其大小を論せず其姿勢を顧みず盡く之を殺さんとし能ふべくんば鳥獸が目を閉ぢて默想する時又

は食に飽て優游する機に乗せんと欲すと此戲言は已に陳腐に屬し今の遊獵家は甚だ其趣を異にす巴里に住む中等階級の末輩を見て佛國の遊獵家を概論せんとするは公を得ず巴里市の末輩にして殺生を嗜む者は日曜の快晴に乗じ威儀を飾りて數里の郊外に出で一隻の山雀を獲ば得々として携へ歸り妻子をして驚喜せしめんと擬す其如何にして得しやを問へば則ち曰く禿樹の枝に懸り一畝の到るなしと安んせり故に遂に銃口を擬して之を射せりと斯かる獵家は論外とし銃を狙ふに巧にして銃獵の規則を守り小樂劇の壇上に現るゝ獵人の如き服装をなさざる遊獵家は佛國中敢て乏しとせずこの輩も機會あらば狐をすら撃つに脚題せじされどこれ佛國に於ては狼及び水獺と同様に狐も亦有害の獸なりと思はるゝが故のみ野豬に至りては益彼等が銃丸の犠牲に供せんと欲する所これ世に嘗に破壊的の獸なるが故ならんや又其肉の食するに足るが故のみ

山野生活に困難なる國 佛國人中世界一般に流行する新潮流に浸染して當世風思想を逐ふに汲々たる社會に在つては遊獵に關する意見大に變化を來た

せり。然れども在來の模範的遊獵家は今尙全く消滅せず、毛ある者羽ある者は殆ど全く之を殺して食用に供す。この輩は各種の小鳥を稱してプチゾワゾー(Petit Oiseau) 小鳥の義といひ、之を鐵叉に貫串して數片の醃肉と伍せしむる時は、其美味決してオルトラン(Ortolan) 鶉雀の一種にして歐洲にては之を珍膳の食とすに耻ぢずとす。田里に住する銃獵家には鵲及び栗鼠は同じく脆味の珍食なり。然れども近世火器の製に大變革起り、銃を以て小鳥の命を奪ふこと大に減少せり。往時雷管の一般に使用せられし頃には山野生活を試むるに多く考慮を要せざりしが、今は彈藥筒てふ高價なる品を用ふるを以て先づその損益得失を顧慮せざるべからず。又以前獵者が銃又は網罟を以て隨意に捕殺することを得し多數の山鳥野禽も大に法律の保護を受くるに至れり。されど獵者は縦令銃を用ひずとも禽鳥を族滅する爲め尙網罟を用ふるに多忙にして、殊に候鳥が遠空を飛翔通過する時、又は雪風の起るに先だち北地より南渡し來る時は最も忙を極む。山鳥及び畫眉雀の如き稍大なる囀禽は人の善く知るが如く、今日佛國に稀なり。不幸なる哉。この種の禽鳥を愛重するものは唯僉父野人の類のみにあらず。況やその

之を愛重するや其囀聲を聞くが爲めにあらず、其肉味に舌を鼓せんが爲めなり。遊獵の利權 佛國に於ては土地の所有者が自領に在る禽獸を保護すること甚だ粗略なり。尋常の遊獵免許は一磅に稍足らざる料金を納むるを要し、之を納めて免許を得しものは概して廣濶なる區域内に奔走狩獵することを得べし。然れども其收穫の豊凶が獵者の巧拙と地方の位地とに關すること論を待たず。佛國中人跡稀なる僻地には鷓鴣(赤脚の者)野兔及び山鶉の類甚だ多しと雖、人口稍稠密にして開拓を経たる諸地に至らば、出獵せんと欲するものは微少の擒獲を得んが爲めに多大の耐忍を受くることを豫期せざるべからず。規則の主旨より論すれば、遊獵の免許は唯之を受けたる州郡の區域以内のみ限り、その外部に於て獵するを得ず。然れども此法規は必ずしも勵行せられず。免許に要する料金の一部は其地方の通行税にして、殘部は國庫に注入す。土地の所有者若し遊獵者の闖入するを拒まんとせば、先づその意を地方廳に通せざるべからず。されど其地内に在る禽獸が實に保護せらるゝにあらんば斯くすること少し。遊獵の開始期及び閉鎖期は處の異なるに従ふて一定せず。その時日は農作の收穫及び鳥獸の

生育に應じ毎年大統領の敕令を以て之を定む。
 富籤及び博奕 博奕の癖性は佛國人の特徴にあらず。之を好むは佛人なほ他邦人の如し。世上何れの人種も此濁汁を以て染汚せられざる者なし。此弊習が國民一般の害悪となる深淺は之に與ふる利便の多少に由る。詳言すれば法律を以て檢束する寛嚴に由る。法律の與ふる利便は畢竟此微菌を生育せしむる器皿なり。嚴正に論すれば富籤は佛國の法律が積極的に許可する所にあらず。然れども近年同國政府が處々に行はるゝ多種無數の富籤計畫に最も濫かなる保護を與へしは疑ふべからざる事實なり。行政官廳の認可を経ずんば一も之を組織する事能はざるが如き即ち其證據にして、認可を得れば之を起す事を許さるゝなり。而してその標榜する所の目的は慈善に在るを以て、當局者は常に自ら口を之に托して辨疏すらく、目的の善良なるは手段の正當なることを證明すと。然り稀には斯かることなしとも測り難し。然れども容易に其名を慈善に托して金錢を募る計畫陸續として現るゝを見れば、吾人は佛國に於ける富籤の慣習が繼て伊太利に於けるが如き大弊害に陥るの恐あらんを慮る。蓋を積んで錢となし、錢を積ん

で圓となす佛國の舊風は遅々として尺蠖の進むに似たりと雖國民全般の安固を保證するには寧ろ恰好の良策的なり。

賭博税 近年佛國に於ては凡ゆる形式の賭博盛にして靡然風をなせり。これ實に一日も看過する能はざる社會的徵候の一にして、佛國の土に生活する者の最も重要視せざるべからざる大事件なるは吾人の喋々を待つて後に知らざるなり。この醜惡なる現象は社會に於ける何れの階級にも認め得べき所にして、而も政府は之を利として賭博の習慣に税を課し、表面は之を罰する爲して實は之を勸奨す。法理の上より之を言へば、賭博の場は固より之を許さざるなり。然れども此種の惡戯を專業とする所は俱樂部若くはカジノ(Casino)集會所の義の名義の下に各所に存す。凡そ衆民が娛樂の爲め會合する所は縦令規模小なるも皆カジノを設け、其中設備の大なる者に至りては年中其卓上に堆積する金額幾許なるやを知らず。而して政府は這般の有害なる會場に行はるゝプチ・シュゾー(Petit chevaux)ルーレット(roulette)卓上に小球を弄する博戲(バツカラ)バセメント骨牌戲の一種に關して竊に良心に咎むる所ありしかば、久しからざる以前買税を納めしむ

る便法を發明して自ら道徳的の解決を得たりとせり。是に於て場主をして政府に納むべき税額を瞞着せざらしむる爲めに集金吏を臨場監督せしむる必要を生じたり。政府の所得は數字を以て之を呼び名けて一割五分といふ。所々の集會所には上述三種以外の博戲は行はれざるべく、ブリッジ、橋の義にて一八六五年以來土都コンスタンチノールの俱樂部に行はれたり。は今急速力を以て佛國に流行すれど、此戲も亦行はれず。政府の從來自ら辨せし所に曰く、賭博の課税より得し金は、隠檢及び集金に要する諸入費を減去せし後之を、必要の事業に用ふと、婦人の賭博。佛國に於て博奕に溺るゝ婦人の數非常に増加せしは最近の現象にして、多數の今人が尙記憶に存する所なり。何れの競馬場に於ても婦人は常に菩薩然として淑徳を裝ふ。然れども海邊のカジノに於て一種奇怪なる事を研究す。この類の婦人は、良徳の範圍に於て常に必ずしも嬌軟溫柔の見を有せず。而して此病に罹れる女流には富なるもあり貧なるもあり富なる者に至りては公債等の収益に座食し、年々一定額の金を別途に蓄へて之を貯散に供す。其貯散法は毎日幾時間づゝ海邊のカジノに入り賭博の卓前に座を占むるに在り。

茲に財囊より金を取つて之を卓上に放出し、時ありては之を回收して懐に入る。思へらくこれ「海水浴」(Bains de mer)の趣を解する最も樂むべき方法なりと。貧なるに至りては巴里に鞠躬勞作する人の妻なるものありて、夫は一週の終にあらすんばその店舖又は事務室を離るゝこと能はざれども、妻子が遠く海岸に遊んで清涼なる海風に心身を保養しつゝあるを思ひ、自ら慰んで日々の勞を忘る。頗て週の終に至るや、彼は海氣の爽涼に酔を散じ愛妻愛子と團欒して一夕の安靜を貪らん欲し、心は先づ妻子の許に飛びながら身は獨り巴里發の列車に乗じて土曜日の暮時海岸の旅館に着す。彼豈に其淑徳の良妻が其週中「小馬」(即ちルーレット)に一切の腰纏を賭し若くは既に輸して之を失ひしを知らんや。妻は事の終始を一時に公にせず、崩潰法に由り一回に一部づゝを漏らして遂に全部を付度せしむ。夫は又全く之を聞かざることあり、妻は毫も之を良人に知らしめず、寧ろ一友より若干金を借りて再び樽蒲の卓上に奇運を博するに如かずとせん。然れども勝敗の運隙靡たるに當りては久しく之を糺糊の間に包むと能はず、其月の未だ終らざるに夫は已に略其消息を窺ひ知らん。此種のカジノには通常「パッカラ」

室の設あり、公衆の總集會室に於けるよりも活潑なる博戯を好む者は求めて之に入ることを得べし。

猥褻文學の潮流 猥褻文學即ちポルノグラフィ (Pornographie) てふ語が巴里に於ける新聞紙上に廣く行はるゝに至りしは近世の事にして、書籍及び新聞の文章中謹慎の風を裝はず、愛倫の宜しきを守らざる者を指すに用ひられたり。一層明瞭に此種の文學の性狀と主意を説明するは無用の勞なるべし。此淫靡の具は専ら佛國人の製造する所にあらず、然れども佛國に於ける出版物檢閲の網紀弛廢して之が爲め出版の自由を束縛する械鎖殆ど全く放棄せられしかば、愚人の囊を射て奇利を掠むる爲め、徳性の敗墮を媒介せんと期待する胡亂の著者は益々猖獗の勢を逞うするに至れり。これ争ふべからざる事實なり。此種の收徳記者は猥褻の文章を需要する諸國に發芽發生する者なれど、責罰を受くる憂なき邦國に於ては最も多く繁殖す。何となれば到る處皆斯かる文學の需要者あればなり。何處かこれ新バビロン 或人會て巴里を以て古昔のバビロンに比し、百般の事物盡く皆弛廢する點二者相似たりとせり。されど巴里人は此比較を以て我意を

得たりとせず、人の之を口にする者あらば禮節を正うして答へて曰く、若し諸他の地よりバビロンの惡風巴里に溢れ來ることなくんば吾市の徳風は略純粹なりしならんと、これ即ち自己の過を他人に嫁せんとする者にして、彼等の此答ある固より其所なり。巴里に於ける最も敗徳亂倫の娛樂機關は外國の金錢を吸引してその主要なる收入とす。猥褻なる「技術」及び文學も亦之に屬する娛樂の一部にして、同市の下水より排泄する此類の濁流中國境外に放出せられ、若くは國境外より汲み取る部分の多量なること驚くに堪へたり。故に放任なる淫神の蹄痕は唯佛國製の讀書臺下に隠さるゝのみと思ひきや、外國製の書机の下にも往々秘匿せらるゝを見る。是に於てか吾人は則ち知る、淫靡なる時様を切愛する不倫の徒はたゞ佛國にのみ在るにあらずして、實に際涯もなき江湖に充滿すること。而して其夥しき害毒は常に法律と警察の周圍を回轉し、未だ會て其門牆内に入らざるなり。夫れ文學的なる繪畫的なる論なく、放肆淫猥なる出版物を出すは徳性を腐爛する要素なるを以て、立法者たる者の宜しく法を設けて公衆の徳を保護すべきこと固より言を俟たず。然るに佛國の立法官が殆ど全く其必

要を認識する明を失ひしは衆目の歴々として見る所なり。されど公衆其者が此點に關して冷淡なる故、立法者の冷淡は半ば恕すべき者の如し。議會幾百の頭顱中多少心を此に留むる者なきは奇なるが如けれども、由來聖人君子は議會に入らんとする野心を起せしことなく、議席に臆列する紛々たる小人は自己の代表する淫猥の怪物に優らざるのみならず、往々之よりも劣れる凡物なり。然らば現今の共和政治は決して公衆道德の紀綱を振肅せりとして驕るの資格なきものとす。現今流行する文學及び戲劇が如何に甚しく良風美俗を害するかを見れば、浮薄輕佻なりとして喧しき非難を受けし第二帝國に現れたる「マダム・ボヴリー」(Madame Bovary)及び「ラ・ダム・オー・カメリア」(La Dame aux Camélias)の二作が其主意の不徳なる爲め後年に及んで求刑せられし所以吾人之を解すること能はず。淫風征伐 今吾人は議會に於て道德地を掃ふと説けり。然れども上院には少くとも一人の異例あることを許さざるべからず。ベランゼー君(M. Beranger)こそ其人にして、多年刻々として、市街の美風を起す爲め舌戰に勉め、猥褻文學の權勢と暴威に反抗して十字軍を起さんことを呼號せり。君は又議論の鋒銛を爰に止めず、

更に陣地を進めて劇場に婦人の裸體を許すを攻撃し、鞭撻到らざるなし。久しからざる以前、の事なりき。巴里所々の音樂館が舞踏の際背面を飾るに像を用ふる風を廢して裸體婦人を用ふる惡例を起せし時、君の鞭は能く之を膺懲し得て遂に之を禁せしめたり。然れども正義の論も滔々たる濁俗に抗すること能はず。民衆は君に光榮を捧げずして却て「廉恥節」(Vers la Pudeur)てふ綽號を附せり。而して勢力ある人士中君と同様の熱誠を有する者少く、概ね皆嘲笑しながら問ふらく、一八三〇年の昔に生れ公衆の道德を看守するに忠實なる此老犬若し死せりとするも將た何事か起らんやと。爰に聊か快心の一事あり、事瑣細なりと雖、方今の出版物が放埒淫佚なる點に關して大に悟る所ありしむ。數月以前のことなりき。巴里の一印刷者はビーエール・ルイ君(前に見ゆ)の著作「アフロディート」(Aphrodite)の新版を起すに當り十六歳未満の童兒を雇用せしが、端なく訴へられて法廷の一事件となれり。斯く法律が這般の事に干涉するに至りしは全く其挿畫の爲めなりき。而して裁判所は判決を與へて曰く、本書の挿畫は十六歳以下の童子に危険なりと。蓋し此判決を味ふに十六歳より以後は少年の煩悶する空想を輕からし

むる爲め美的の意識發生する者と期すべしてふ意を含蓄するが如し。
 主人と僕婢 佛國に於て主人と僕婢との關係全く英國に於ける者と同じからず。先づ第一に此關係を決定する法律は二國多少相違ふ。佛國に於て家庭の用に使はるゝ僕婢は一個月幾許てふ約を以て雇はる。但し山村の各地には此例に従はざる所あり。斯かる地方には特殊の風俗ありて、古來の慣習恰も法律と同一の効力を有す。而して主従兩者は前述の如く月給を以て相約すと雖、共に八日の通知てふことを肯諾す。佛國に於て僕婢を雇川する一般の婦人が概ね常に耳に親む語は「主婦に捧ぐるに我八日を以てせんてふ豫告にして、八日を經過せば僕婢は隨時に去ることを得るなり。而して男女を問はず被雇者若し雇主の豫告なく強ひて解雇せらるゝことあらば、唯八日に相當する賃銀を請求するを得るのみ。然れども悪行ありて突然解雇せらるゝ時は請求の權利消滅す。斯かる場合には往々激烈なる論争起り、是非の決を治安裁判判事 (Juge de paix) に仰ぐ。この裁判官は大抵附近の地に在て容易に之に訴ふるを得べく、其主要の職責は擾亂せる水面に油を注ぎて波浪を滑かにし以て争訴の端を治むるに在り。主婦と被雇者の

紛論に耳を傾くるに當り判事は殊に自己の職務に快味の多きを覺え、職掌を全うする報酬として豊かに俸祿を受く。此俸祿は要するに節儉の美風を養ふ目的を以て給與するに外ならず。佛國に於ける婢女は今共和政治の下に在るを以て、論理の上より言へば英國に於ける者の如く不羈獨立に且つ倨傲なる公民なるを當然とす。然れども實地に於ては爾かく倨傲に且つ獨立自主ならず。封建制度の舊風は一旦革命の爲めに烏有となりしが如きも、幾百年來の遺習は今尙烟霧の如く所々に搖曳す。故に佛國の婢女は多少此舊風の感化を受け、田舎に生長せし者に至りては殊に多く此臭味を帶ぶ。是を以て彼等は奴隸の如く驅使せらるるも恰も千秋不易の道理なるかの如く甘んじて服役す。加之佛國の小家庭に雇はるゝ通常の婢子は思へらく、人に仕ふる者宜しく多藝多能ならざるべからずと聞く。余も亦此教を拳々服膺せざるべからずと。故を以て主婦の監督の下に凡ゆる用務を處辨して一日の中暫らくも暇ある事なし。蓋し佛國の婦人にして我家の廚房に臨檢細査する勇なき者は、富裕にし奢侈なる階級にあらざるより外吾人の多く見ざる所なり。而して富豪の家に在ても婦人が苛察の目を以て廚房

に干渉せざる所以は其勇氣を缺けるが爲めにあらず、實に這般の事に興味を缺けるが爲めのみ、英國に於て三人の僕婢を要するが如き家族も、之をして佛國に在らしめば二人を以て家事を整治するに十分なるべく、英國にては二人を用ひざるべからずと思はるゝ場合に佛國人は唯一人を用ふるを普通とす。これ全く同國の婦人が僕婢を號令驅使する才幹あると家政整理の才に富めるとに由るものにして、實に佛國中等階級の特徴なり、婢僕の品行に關して主婦は多く容喩せざるを常とし、自己に不快の念を起さしむるにあらざる以上は溫柔に之を看過して自若たり、都市に住する婦人は最も然りとす、故に主婦に侍する婢女は德行の模範を供することを望まれず、唯筋骨の勞力を献せんことを要せらる。善良の資質は固より佛國の婢僕が傲りとする所なり、されどモンチオンの有徳懸賞を受くべき人物を容易に此國に求めんとするは其期望稍多きに過ぎん、此有徳懸賞は從來學士院が德行高き少數の人に授與せし者なり。

決闘 佛國人が頑固に決闘の奇風に粘着するは該國以外の人を驚異せしむ、他邦人の此國に来るや、常に必ず訝り問ふて曰く、何が爲めに法律は斯くの如き蠻

風の再活を有徳と見做して之を許可するやと、然り佛國の法律が放任主義を以て此蠻行を冷眼に視るは明瞭の事實なり、此方法に由て争論を決するは必ずしも近年に始まりしにあらず、然れども之を行ふ自由を人民に與へたる事現今の共和政治より甚しきは吾人の未だ知らざる所なり、第二帝國は大に之を制遏せしを以て決闘者は之を行ふに頗る不便を感せり、此風俗は野蠻時代の遺習なりて、よ説は大に争論の存する所にして、必ずしも之に首肯し難し、されど此風俗が基督教理に背馳するは争ふべからず、其原則の定むる所に據れば當事者兩人は互に禮節ある態度儀容を守り、敬禮を尊重することを主眼とす、甲乙二人私怨を以て相争ふ事あらんに、若し其秘密の消息を他人に知られば二人共に世人の嘲笑を招き、恐らくは又當事者以外の人にも恥辱を與ふるが如き場合には、之を法廷に訴へず決闘を以て私に紛擾を定むること多し、幸にして決闘には諸種の豫備的手段ありて、害惡の伴生を少からしめ、且つ又當犯者は殆ど常に慘烈なる害を加へざらんと欲す、故に全國の民衆が嚴烈なる法律を以て之を禁壓せんことを明瞭に要求せざる以上、決闘を放任して國民一般の風俗とするも有害なる

結果を生ぜざるべしと思考せらる。從來此慣習の防止運動を起すべしてふ説の出る毎に、民衆は常に首を回して冷笑せり。然れども過激猛烈の作法を以て決闘するは民法の制裁を加ふる所にして、甲者乙者と戦ふて之を殺す時は殺人罪を以て求刑せらる。されど、敬禮法に照らして規則外の悪行を敢てせしにあらざれば、其無罪放免は確實なりと思惟して可なり。但し斯かる場合と雖之にて事件全く落着するにあらず。殺されし者の未亡人若くは子女は損害の賠償を要求する事必然にして、其時には民事の陪審官は勝利者に賠償を出すことを命ずべし。此に至り勝者は勝利を買ふに高價を拂ふべきを悟らん。故に決闘を挑まんとするに臨み、復仇の希望あるを思ふて心に愉快を感ずるも、其真正の利害得失を計量して三思せざるべからず。之を計量すべき主要點は一たび親まらば巨額の金額を辨償すべしてふ事なり。斯くの如く大金の得失を顧慮するの必要は恐らくは當事者をして甚しく徳義を破らざらしめ、闘争に於て亂暴の行爲に出でざらしむべし。若し此實利的良心の聲が耳邊に隔かざらんには、當犯者は奮激の情を恣にして狂暴惡逆の舉に出でずと言ひ難し。既往の二十年間佛國に行はれたる決

闘中對敵を殛せし例恐らくは十回を超えざりしなるべく、又稀には故意に殺せし事ありしならんも、過半は偶然の失策若くは熟練の足らざる結果なりき。現今は武器に訴へて論争を決する場合頗る稀にして、政治家及び新聞記者の間に之を見るのみ。クレマンソー君は數回決闘の當犯者たゆしが、其中最も著名なりしはポール・デルレート君との争戦あり。然れども此戦には甲乙共に血を見ざりき。君の好んで使用する利器は拳銃にして、加ふるに銃の名手なりてふ聞えある故、君を敵として決闘の場の上る者は勇氣沮喪して趨起遂還す。

人と獸 佛國人は敢て殘忍刻薄の國民なるにあらず。然れども獸畜の苦痛を見て冷淡なるは此國に來り住する異邦人の屢、驚異する所なり。夫れ獸畜を憐む心あると否とは大に教育及び文化の良否深淺に係る。英國に於て社會の高層に在る者は久しき以前より高尚の感情を陶冶せられ、之に加ふるに法律は動物を憐む感情を尊重せん事を強ふ。而して此惻隱の心は獨り上流社會のみならず、遠く下層に在る階級にも蔓延す。故を以て英國の民衆は悉く皆狂惡酷虐なる行爲の管に卑劣なるのみならず、又實に怯懦なることを解知す。これ教育の然らしむ

る所ならずんばあらず。翻つて佛國を見れば大に英國と異なるのみならず、動物に對しては一點憐憫の涙なきに似たり。同國に一個の法律あり「グラモン法」(Panem et Circum)と名く「家畜」を保護して之を虐待せざるを根本の原理とす。而して此成文律の附與する權力を基礎として家畜虐待を禁遏するのみの協會すら存在するに拘らず、實際上該法律は今日たゞ死文となりて存するのみ、個人に在りては若し告發求刑せられなば諸の不便と苦痛伴ひ生せんことを非常に恐れ、必ずしもこの法律を無視するにあらず。然れども警察の態度如何と見れば一般に猛惡の行爲を見るも恬として相關せざるが如し。故に人民が駄獸を使用するを見るに食物缺乏し疲勞頓頓する時にすら屢之を虐待し、其行爲の蠻的なること心ある者をして見るに堪へざらしむ。然れども非難の聲すら起ること稀なり。況や自ら進んで之に干渉するに於てをや、鳥獸を殺すは通常公衆通行の前に於ても、其肉を購求する者は眼前に親しく之を目撃するを得べし。これ宜しく禁止すべき惡風なり。一例を擧ぐれば兎を殺すには徐々に出血せしめて自から死に至らしめ、その方法殊に兇猛を極む。之を傍觀するものは罪なきが如し。雖、其悲慘の狀を

目前に見ながら之を制することを知らざるは、道徳上より論すれば自らこの酷虐の行爲に與れるに均し。是に於て吾人は之を傍觀する婦人の敏感性がこの間何處に潜伏するやを疑はざるを得ず。常に華堂に潜んで市井の情況を知らざる婦人は固より恕すべし。然れども社會の位地甚だ高からず、時々這般の店舗に入する婦人には決して實狀を知らずてふ辯解を許し難し。近世の文明生活は漸々人心を感化して之を優雅ならしめつゝあるに、この憐むべき動物に對する義務に關係する該問題は果して如何。文明生活の感化力は該問題の上を超越して進みしか、將た又其傍を彎曲して經過せしが如し。近年佛國の南部に於て西班牙式に倣ひ闘牛を起さんと企て、若し政府之に認可を與へずんば代議士の選舉に於て之を報復すべしと恐嚇せしかば、政府は脆くも威喝に屈服して之を允許せり。此一點より見れば佛國は積極的に退歩せりと謂ふも妨なく、吾人之を思へば昔時羅馬政府が殺戮的の殘酷なる娛樂を起して人民の歡心を迎ふる必要を感せし後、衆庶の幾度か發せし叫聲「Panem et Circum」(Panem et Circum)は、此二者を吾人に與へよてふ意を含

む叫聲なり)を追想して悲まざるを得ず。現今南部佛國の民庶は未だ斯くの如き
蠻戯を廢するを欲せず。却て之を文明の今日に復興せり。而して昔時の羅馬人が
アマフィシアター(楕圓形の大戲場にして劍客及び野獸の鬪争を觀覽せしめし所)
に舉行せし者と同種の遊戯を嗜好する情は近年マルセーユに於て頗る熾にし
て、牡牛と虎との角闘を公衆の觀覽に供せしことあり。然れども官憲之を非認し
て事の半途に止みしは吾人の満足する所なり。但し兩獸その苦痛に堪へず各、自
ら逡巡して鬪闘の繼續を謝絶せしまで警察は干渉を試みざりしなり。

結 論

著者は本書に於て佛國の情況を描寫するに當り、その暗黒面を秘し光明の表面
のみを現さんとする意圖を有せざりき。これ此書を通讀せし諸彦の已に認むる
所ならん。然れども慣習及び一般の傾向に於て矯正と精鍊とを要する暗黒面を
有せざる國民將た何處にか在る。著者は自己の生れ來りし人種及び邦國を以て
人間の美德を獨占するものなりとは信せず。又公生涯若くは個人生涯に於て殆
ど完全の域に近接せるものなりとも信せず。斯くの如き完全なる人民は何れの
處にも求むべからざるなり。然れども世界に布列する諸國民は一切の偏見を放
棄し、正義と好意とを以て彼此相互に其好醜優劣を研究せば、則ち理想の美に向
ひて進歩發達することを得べし。斯く各、切磋琢磨する時は缺點多き國民も亦他
山の石なり。歐洲に接壤する國民中何れの二者を取つて見るも、英佛二國の如く
目的見解冀望及び政治的の利害相一致する者なし。然らば二民各、相毒し相害す
る心を抛擲し、甲乙相研究し相評論しなば、現今二國の間に存する親密の關係を

擴充して更に永續すべき大利益を得ざらんとするも得べからざるべし。

佛 國 人 の 佛 國 終

明治四十三年十月二十日印刷

明治四十三年十月廿五日發行



編輯兼發行者

大日本文明協會

右代表者

磯 部 保 次

印刷者

緒 形 功

印刷所

東京市神田區三河町丁目十四番地

東京市神田區三河町丁目十四番地

東京市京橋區南鍋町壹丁目貳番地

大日本文明協會

發行所

電話 函 編 二四三
一四九四三八
三九六三〇九二六

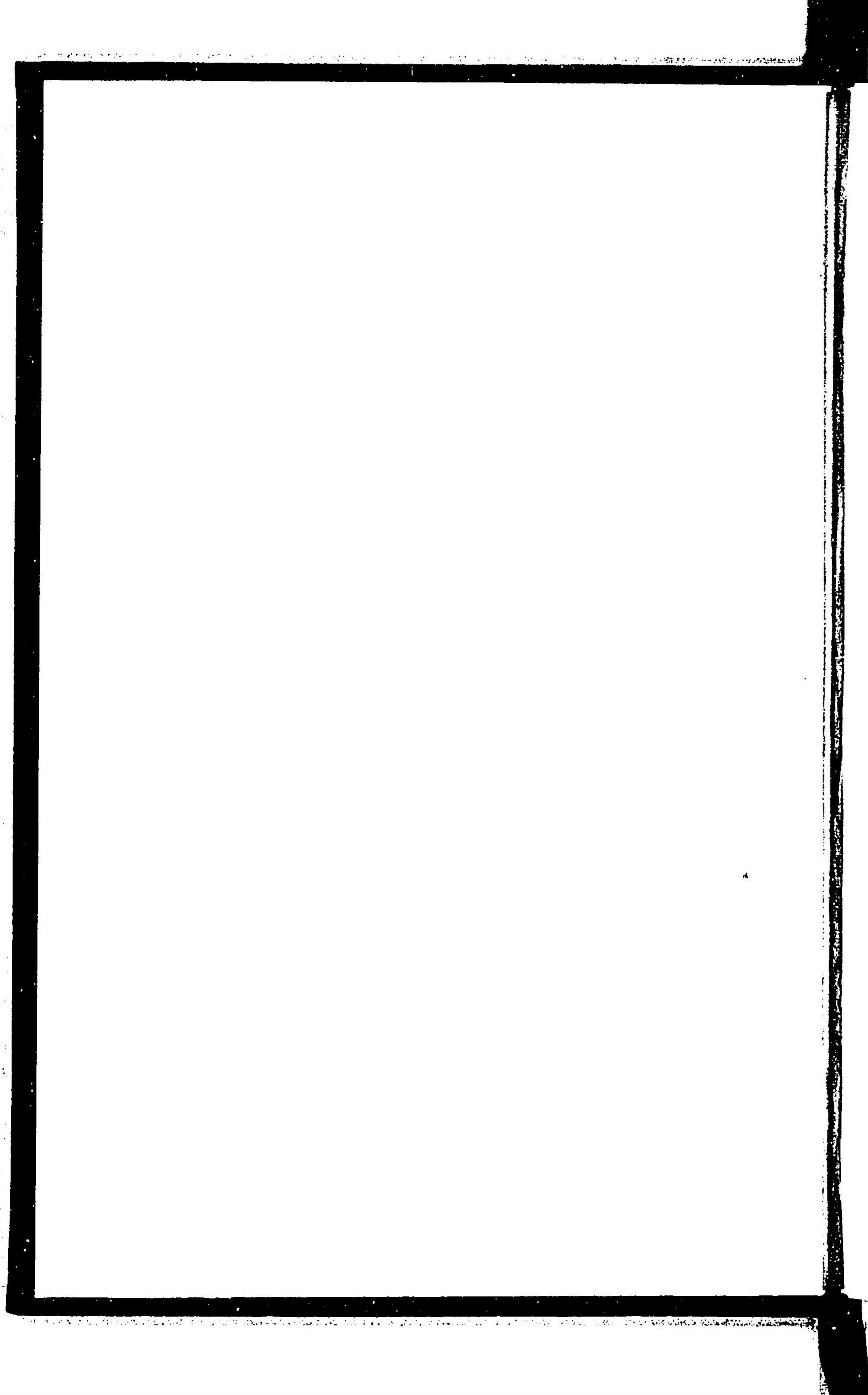
總發行所 東京市京橋區南鍋町壹丁目貳番地

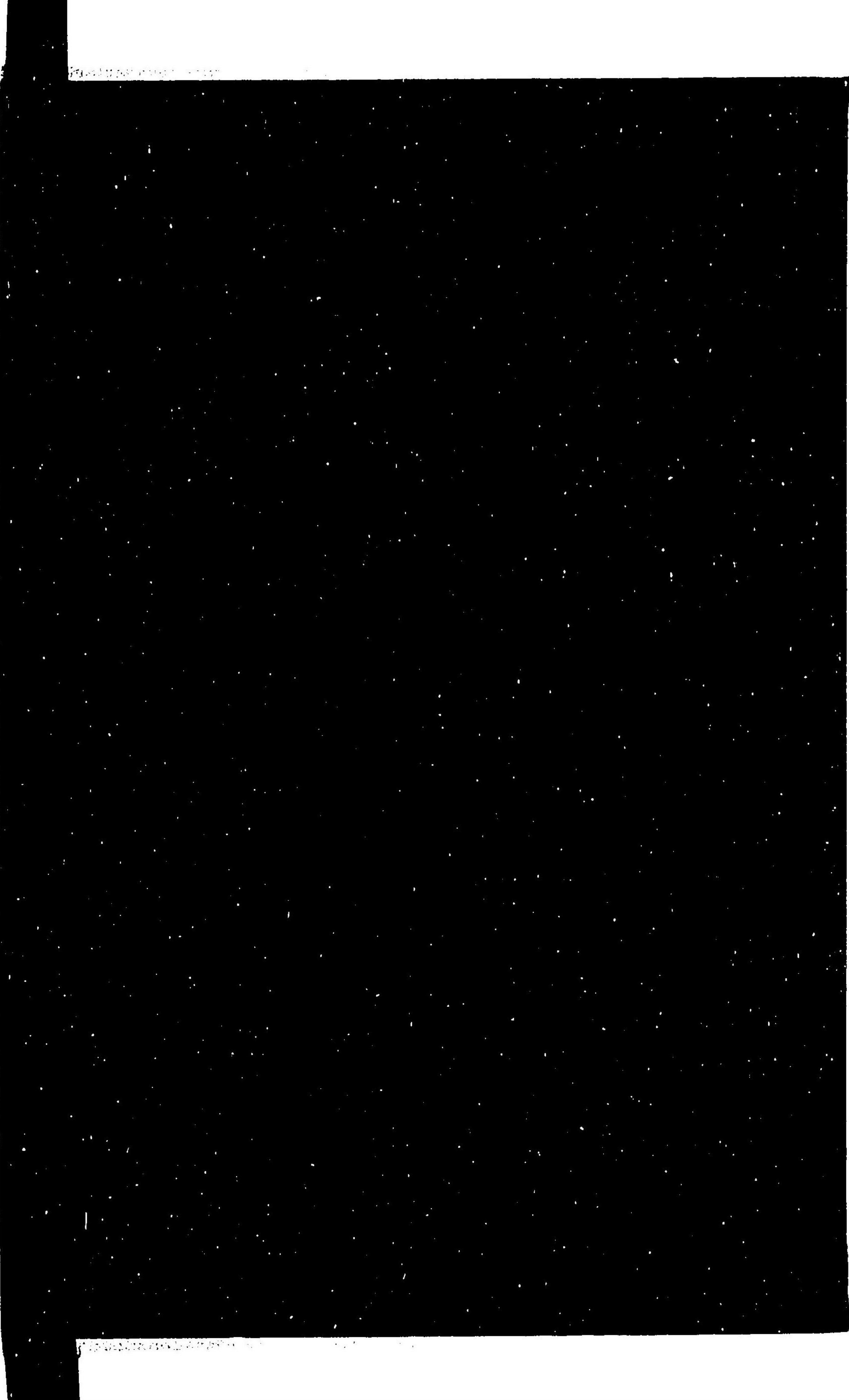
佛國人の佛國

非賣品

(第三十回配布分)







78

98

026861-000-3

78-98

仏国人の仏国

イー・ハリソン・バーカー / 著

M43.

ADF-0042



